

## 別表第 4 施工管理記録様式

## 目 次

様 式	名 称
	(出来形管理関係)
1	出来形管理図表 品質管理図表 (表紙)
2-1	出来形管理図表
2-2	度 数 表
3-1	測定結果一覧表
3-2	鋼管溶接測定結果一覧表
3-3	鋼管溶接、塗覆装点検表
3-4	管水路ジョイント間隔測定結果一覧表
3-5	埋設とう性管たわみ量管理表
3-6	鉄筋組立検査結果一覧表
4	杭 打 ち 成 績 表
	(コンクリート関係)
5	セメントの密度試験 (JIS R 5201)
6-1	セメントの粉末度試験 (比表面積試験) (JIS R 5201)
6-2	セメントの粉末度試験 (網ふるい試験) (JIS R 5201)
7	セメントの凝結試験 (JIS R 5201)
8	セメントの安定性試験 (JIS R 5201)
9	セメントの強さ試験 (JIS R 5201)
10	細骨材の密度および吸水率試験 (JIS A 1109)
11	粗骨材の密度および吸水率試験 (JIS A 1110)
12	細骨材の表面水率試験 (JIS A 1111)
13-1	骨材のふるい分け試験 (細骨材) (JIS A 1102)

様式	名	称
13-2	骨材のふるい分け試験 (粗骨材)	(JIS A 1102)
14	骨材試験成績一覧表	
15	コンクリートのスランプ試験およびフレッシュコンクリートの空気量の圧力による試験(空気室圧力方法)	(JIS A 1101) (JIS A 1128)
16	コンクリートの圧縮強度試験	(JIS A 1108)
17	コンクリートの曲げ強度試験	(JIS A 1106)
18	フレッシュコンクリート中の水の塩化物イオン濃度試験	(JIS A 5308) (JIS A 1144)
19	骨材のアルカリシリカ反応性試験 (化学法)	(JIS A 5308) (JIS A 1145)
20	骨材のアルカリシリカ反応性試験 (モルタルバー法)	(JIS A 5308) (JIS A 1146)
21	鉄筋の曲げ試験	(JIS G 3112) (JIS Z 2248)
22	鉄筋の引張試験	(JIS G 3112) (JIS Z 2241)
	<b>(土質関係)</b>	
23	土の含水比試験	(JIS A 1203) (JGS 0121)
24-1	砂置換法による土の密度試験 (校正)	(JIS A 1214)
24-2	砂置換法による土の密度試験 (測定)	(JIS A 1214)
25	土の収縮定数試験	(JIS A 1209) (JGS 0145)
26-1	C B R 試験 (初期状態、吸水膨張試験)	(JIS A 1211) (JGS 0721)
26-2	C B R 試験 (貫入試験)	(JIS A 1211) (JGS 0721)
26-3	C B R 試験 (室内試験結果)	(JIS A 1211) (JGS 0721)
27	修正 C B R 試験	
28	現場 C B R 試験	(JIS A 1222)
29	道路の平板載荷試験	(JIS A 1215)
30	土の直接せん断試験	

様式	名 称	
3 1	ポータブルコーン貫入試験	(JGS 1431)
3 2	締固めた土のコーン指数試験	(JIS A 1228) (JGS 0716)
3 3-1	土の一軸圧縮試験 (初期状態、軸圧縮過程)	(JIS A 1216) (JGS 0511)
3 3-2	土の一軸圧縮試験 (強度・変形特性)	(JIS A 1216) (JGS 0511)
3 4-1	土の液性限界・塑性限界試験 (測定)	(JIS A 1205) (JGS 0141)
3 4-2	土の液性限界・塑性限界試験 (試験結果)	(JIS A 1205) (JGS 0141)
3 5	土粒子の密度試験 (検定、測定)	(JIS A 1202) (JGS 0111)
3 6-1	土の粒度試験 (ふるい分析)	(JIS A 1204) (JGS 0131)
3 6-2	土の粒度試験 (2mmふるい通過分分析)	(JIS A 1204) (JGS 0131)
3 6-3	土の粒度試験 (粒径加積曲線)	(JIS A 1204) (JGS 0131)
3 7-1	突固めによる土の締固め試験 (測定)	(JIS A 1210) (JGS 0711)
3 7-2	突固めによる土の締固め試験 (締固め特性)	(JIS A 1210) (JGS 0711)
	(アスファルト関係)	
3 8	アスファルト試験成績一覧表	
3 9	アスファルトの粘度温度表	
4 0	粗骨材試験成績一覧表 (碎石)	
4 1	細骨材試験成績一覧表 (砂)	
4 2	石粉及びスクリーニングス試験成績一覧表	
4 3	骨材粒度曲線表 (アスファルト)	
4 4	合材粒度ふるい分け試験及び配合比決定例	
4 5	骨材の推定変動範囲 (細骨材及びスクリーニングス)	
4 6	骨材配合率の密度補正	

様式	名 称
47	骨材配合率及び合成粒度 (室内試験)
48	合成粒度曲線 (室内試験)
49	試験配合表 (アスファルト量別)
50-1	アスファルト混合物の安定度試験 (マーシャル式・理論最大密度)
50-2	アスファルト混合物の安定度試験 (マーシャル式)
51	試験結果図表
52	マーシャル試験による基準アスファルト量
53	フィーダ、ホットビン、ミキサーの骨材の粒度試験
54	粗骨材のすりへり試験 (JIS A 1121)
55	アスファルトの抽出試験
56	路面の平坦性試験表 (標準偏差)
57	プルーフローリング試験
	(品質管理関係)
58-1	$\bar{X} - R$ 管理データシート
58-2	$\bar{X} - R$ 管理データシート
58-3	$\bar{X} - R$ 管理図
59-1	$X - R_s - R_m$ 管理データシート
59-2	$X - R_s - R_m$ 管理データシートの2
60	$X - R_s - R_m$ 管理図

(出来形管理関係)

様式 1

平成 年度 工事

出来形管理図表

品質管理図表

種 目

\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_

事業所

支所

受注会社名

注) 1. 出来形(品質)管理図表は、本表紙様式により、工種毎に綴るものとする。ただし、小規模工事については、監督職員の承認を得て、全工種分を一括綴り  
とすることができる。

2. 種目は、基準高、厚さ、幅等と記入する。



様式 2-2

度 数 表

工 事 名 工 種 名 平 成 年 月 日 現 在 受 注 会 社 名 測 定 者 印

← 度 数 (回)																						(-) ← 設 計 値 と の 差 → (+)	

注) 出来形管理で20点以上の場合使用する。











埋設とう性管たわみ量管理表

工事名 \_\_\_\_\_

受注会社名 \_\_\_\_\_

管種(長さ) \_\_\_\_\_

測定者 \_\_\_\_\_ 印

測定位置 (管番号)	管据付時				管頂埋戻し時				埋戻し完了時				D+t(mm) (内径)(管厚)
	D <sub>U</sub> mm	たわみ率 %	D <sub>h</sub> mm	たわみ率 %	D <sub>U</sub> mm	たわみ率 %	D <sub>h</sub> mm	たわみ率 %	D <sub>U</sub> mm	たわみ率 %	D <sub>h</sub> mm	たわみ率 %	

たわみ率の計算

$$\frac{\Delta X}{2R} \times 100(\%)$$

$$\Delta X = [2R - (D_U + t)] \text{ 又は } [2R - (D_h + t)]$$

2R: 管厚中心直径

t: 管厚

- 注) 1. マーキング位置における測定値を記入する。  
 2. 測定については「土木工事施工管理基準」別表第1 直接測定による出来形管理 管水路工事 管水路(埋設とう性管)の測定基準による。  
 3. 矢板引抜き時の測定は、「管頂埋戻し時」の欄に測定値を記入する。









セメント粉末度試験(比表面積試験)  
(JIS R 5201)

工事名 \_\_\_\_\_ 受注会社名 \_\_\_\_\_  
 工種名 \_\_\_\_\_ 測定者 \_\_\_\_\_ 印

試験日	平成 年 月 日 曜 天候			
試験日の状態	室温 ( °C )		湿度 ( % )	
試料	-----			
①セルと水銀との質量 (g)				
②セルの質量 (g)				
③水銀の質量 ① - ② (g)				
④(セル)+(セメント)+(水銀)の質量 (g)				
⑤(セル)+(セメント)の質量 (g)				
⑥水銀の質量 ④ - ⑤ (g)				
⑦水銀の密度 (g/cm <sup>3</sup> )				
⑧ベットの体積 $\frac{③ - ⑥}{⑦}$ (cm <sup>3</sup> )				
⑨平均値				
測定番号	1	2	3	4
試料の質量 (g)				
標準試料降下時間 t <sub>0</sub> (s)				
標準試料比表面積 (cm <sup>2</sup> /g)				
セメント降下時間 t (s)				
セメント比表面積 (cm <sup>2</sup> /g)				
許容差				
平均値				
考察	-----			
	-----			
	-----			
	-----			
	-----			





セメントの安定性試験  
(JIS R 5201)

工事名 \_\_\_\_\_ 受注会社名 \_\_\_\_\_

工種名 \_\_\_\_\_ 測定者 \_\_\_\_\_ 印

試験日	平成 年 月 日 曜			天候	
試験日の状態	室温 (°C)	湿度 (%)	水温 (°C)		
養生温度(°C)					
試料	-----				
	-----				
測定番号	1	2	3	4	
試料の質量 (g)					
水の量 (ml)					
ひび割れ・反りの有無					
試験結果					
考察	-----				
	-----				
	-----				
	-----				
	-----				
	-----				
	-----				
	-----				
	-----				
	-----				

様式 9

セメントの強さ試験  
(JIS R 5201)

工事名 \_\_\_\_\_

受注会社名 \_\_\_\_\_

工種名 \_\_\_\_\_

測定者 \_\_\_\_\_ 印

試験日		平成	年	月	日	平成	年	月	日	平成	年	月	日	平成	年	月	日		
試験日の状態	室温 (°C)																		
	湿度 (%)																		
養生温度 (°C)																			
材 齢 (日)																			
供試体質量 (g) (脱型直後)		1																	
		2																	
		3																	
供試体質量 (g) (強さ試験直前)		1																	
		2																	
		3																	
曲 げ 試 験	最大荷重 (N)	1																	
		2																	
		3																	
	曲げ強さ (N/mm <sup>2</sup> )	1																	
		2																	
		3																	
平均値 (N/mm <sup>2</sup> )																			
圧 縮 試 験	最大荷重 (N)	1																	
		2																	
		3																	
		4																	
		5																	
		6																	
	圧縮強さ (N/mm <sup>2</sup> )	1																	
		2																	
		3																	
		4																	
		5																	
		6																	
平均値 (N/mm <sup>2</sup> )																			
供試体作製日 : 平成 年 月 日																			





細骨材の表面水率試験  
(JIS A 1111)

工事名 \_\_\_\_\_

受注会社名 \_\_\_\_\_

工種名 \_\_\_\_\_

測定者 \_\_\_\_\_ 印

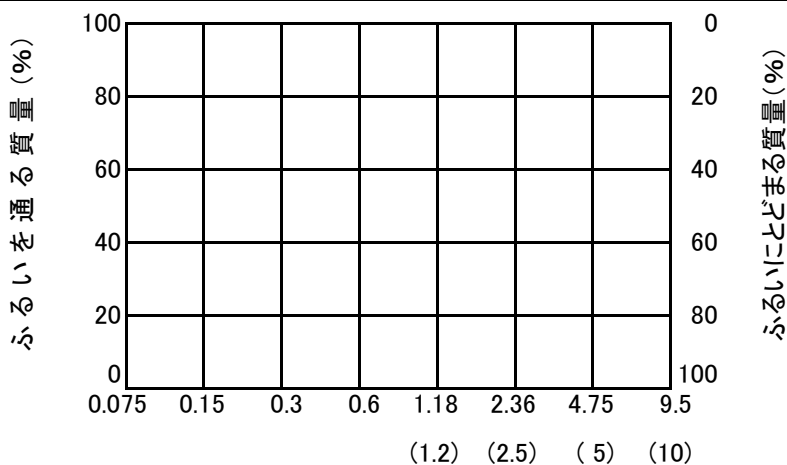
試験日	平成 年 月 日 曜	天候		
試験日の状態	室温 ( °C )	湿度 ( % )	水温 ( °C )	
試料	-----			
	d <sub>s</sub> : 試料の表面乾燥密度 = g/cm <sup>3</sup>			
測定番号	1	2	3	4
① 試料の質量 m <sub>1</sub> (g)				
② (フラスコ)+(マークまでの水)の質量 m <sub>2</sub> (g)				
③ (フラスコ)+(マークまでの水) +(試料)の質量 m <sub>3</sub> (g)				
④ m=①+②-③ (g)				
⑤ ms = $\frac{\textcircled{1}}{d_s}$				
⑥ 表面水率 $H = \frac{\textcircled{4} - \textcircled{5}}{\textcircled{1} - \textcircled{4}} \times 100$ (%)				
⑦ 平均値 (%)				
⑧ 平均値との差 (%)				
⑨ 試料を覆う水量 V <sub>1</sub> (mL)				
⑩ (試料)+(水)の容積 V <sub>2</sub> (mL)				
⑪ V=⑩-⑨ (g)				
⑫ 表面水率 = $H = \frac{\textcircled{11} - \textcircled{5}}{\textcircled{1} - \textcircled{11}} \times 100$ (%)				
⑬ 平均値 (%)				
⑭ 平均値との差 (%)				
考察	-----			
	-----			
	-----			
	-----			
	-----			



骨材のふるい分け試験(細骨材)  
(JIS A 1102)

工事名 \_\_\_\_\_ 受注会社名 \_\_\_\_\_  
 工種名 \_\_\_\_\_ 測定者 \_\_\_\_\_ 印 \_\_\_\_\_

試験日	平成 年 月 日 曜 天候				
試験日の状態	室温 (°C)		湿度 (%)		
試料	-----				
ふるいの呼び寸法 (mm)	各ふるいにとどまる質量の累計		各ふるいにとどまる質量		ふるいを通る質量
	(g)	(%)	(g)	(%)	(%)
9.5 (10)					
4.75 (5)					
2.36 (2.5)					
1.18 (1.2)					
0.6					
0.3					
0.15					
0.075					
受皿					
計					
粗粒率					



ふるいの呼び寸法(mm)、※( )は従来の呼び寸法

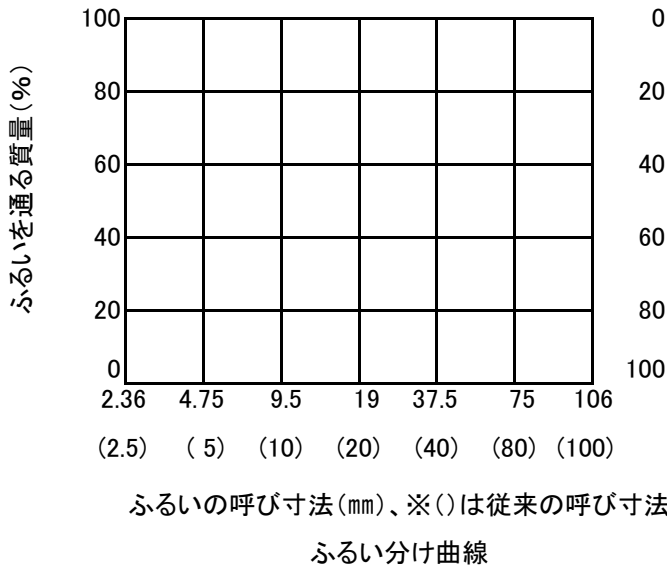
ふるい分け曲線

考察  
-----  
-----

骨材のふるい分け試験(粗骨材)  
(JIS A 1102)

工事名 \_\_\_\_\_ 受注会社名 \_\_\_\_\_  
 工種名 \_\_\_\_\_ 測定者 \_\_\_\_\_ 印 \_\_\_\_\_

試験日	平成 年 月 日		曜 天候		
試験日の状態	室温 ( °C )		湿度 ( % )		
試料	-----				
ふるいの呼び寸法 (mm)	各ふるいにとどまる質量の累計		各ふるいにとどまる質量		ふるいを通る質量
	(g)	(%)	(g)	(%)	(%)
最大寸法 (mm)			粗粒率		



考 察

-----

-----

-----

-----

-----

-----

-----

-----

-----

-----

-----

-----

-----

-----

-----

-----

-----

-----

-----

-----

-----

骨材試験成績一覽表

工事名 \_\_\_\_\_ 受注会社名 \_\_\_\_\_  
 工種名 \_\_\_\_\_ 測定者 \_\_\_\_\_ 印

試料採取地名									
試験日									
ふるい分け	粗骨材	150 <sup>mm</sup> 以上通過質量百分率 %							
		150 ~ 100 "							
		100 ~ 80 "							
		80 ~ 60 "							
		60 ~ 50 "							
		50 ~ 40 "							
		40 ~ 30 "							
		30 ~ 25 "							
		25 ~ 20 "							
		20 ~ 15 "							
		15 ~ 10 "							
		10 ~ 5 "							
	5以下 "								
	粗粒率								
	細骨材	5 <sup>mm</sup> 以上通過質量百分率 %							
		5 ~ 2.5 "							
		2.5 ~ 1.2 "							
		1.2 ~ 0.6 "							
		0.6 ~ 0.3 "							
		0.3 ~ 0.15 "							
粗粒率									
細骨材	密度								
	単位容積質量(標準) kg/m <sup>3</sup>								
	単位容積質量(軽装) kg/m <sup>3</sup>								
	安定性 %								
	吸水量 %								
粗骨材	洗い試験 %								
	密度								
	単位容積質量(標準) kg/m <sup>3</sup>								
	単位容積質量(軽装) kg/m <sup>3</sup>								
	安定性 %								
	吸水量 %								
	すりへり減量 %								
	洗い試験 %								
軟石量試験 %									
細長扁平試験 %									
備考									



コンクリートの圧縮強度試験  
(JIS A 1108)

工事名 \_\_\_\_\_ 受注会社名 \_\_\_\_\_

工種名 \_\_\_\_\_ 測定者 \_\_\_\_\_ 印 \_\_\_\_\_

試験日	平成 年 月 日 曜 天候										
試験日の状態	室温 (°C)			湿度 (%)				水温 (°C)			
試料											
示方配合	粗骨材の最大寸法 (mm)	スランプ (cm)	水セメント比 W/C (%)	空気量 (%)	細骨材率 s/a (%)	単 位 量 (kg/m <sup>3</sup> )					
						水 W	セメント C	混和材 F	細骨材 S	粗骨材G	
									mm ∟ mm	mm ∟ mm	
材 齢 (日)											
養生方法						養生温度 (°C)					
供試体番号	1		2		3			4			
平均直径 (mm)											
断面積 (mm <sup>2</sup> )											
平均高さ (mm)											
スランプ (cm)											
質 量 (kg)											
最大荷重 (N)											
圧縮強度 (N/mm <sup>2</sup> )											
平均圧縮強度 (N/mm <sup>2</sup> )											
見掛け密度 (kg/m <sup>3</sup> )											
平均見掛け密度 (kg/m <sup>3</sup> )											
供試体の破壊状況のスケッチ											
考 察	----- ----- ----- ----- -----										

コンクリートの曲げ強度試験  
(JIS A 1106)

工事名 \_\_\_\_\_ 受注会社名 \_\_\_\_\_  
 工種名 \_\_\_\_\_ 測定者 \_\_\_\_\_ 印 \_\_\_\_\_

試験日	平成 年 月 日 曜 天候													
試験日の状態	室温 (°C)				湿度 (%)				水温 (°C)					
試験料														
示方配合	粗骨材の最大寸法 (mm)	スランブ (cm)	水セメント比 W/C (%)	空気量 (%)	細骨材率 s/a (%)	単 位 量 (kg/m <sup>3</sup> )						粗骨材G mm    mm ?    ? mm    mm		混和剤 (g/m <sup>3</sup> )
						水 W	セメント C	混和材 F	細骨材 S					
材 齢 (日)														
養生方法						養生温度 (°C)								
供試体番号	1		2			3			4					
平均幅 (mm)														
平均高さ (mm)														
スパン (mm)														
最大荷重 (N)														
曲げ強度 (N/mm <sup>2</sup> )														
平均曲げ強度 (N/mm <sup>2</sup> )														
破壊断面とこれに近い支点との距離 (mm)														
供試体の破壊状況のスケッチ														
考 察	----- ----- ----- ----- ----- ----- -----													

フレッシュコンクリート中の水の塩化物イオン濃度試験  
(JIS A 5308、JIS A 1144)

工事名 \_\_\_\_\_ 受注会社名 \_\_\_\_\_ 印  
 工種名 \_\_\_\_\_ 測定者 \_\_\_\_\_

試験日	平成	年	月	日	天	候				
試験料	採取方法									
	保管方法									
示方配合	粗骨材の最大寸法 (mm)	スランプの範囲 (cm)	空気量の範囲 (%)	水セメント比 (%)	細骨材率 (%)	水	セメント	細骨材	粗骨材	混和材料
								~	~	
測定内容	分析法									
	測定器名及び指示薬									
測定回数	1	2	3	平均						
塩化物イオン濃度 (%)										
塩化物量 (kg/m <sup>3</sup> )	判定基準									
	_____以下									
測定場所										
現場										
工場										

様式 19

骨材のアルカリシリカ反応性試験（化学法）  
 (JIS A 5308、JIS A 1145)

工事名 \_\_\_\_\_ 受注会社名 \_\_\_\_\_ 印

工事種名 \_\_\_\_\_ 測定者 \_\_\_\_\_

試	骨材の種類	骨材の産地	繰返し	試験料量 (g)	反応時間 (hf)	日 平成 年 月 日				アルカリ濃度減少量(Rc) (mmol/l)			溶解シリカ量 (Sc) (mmol/l)			原子吸光度法			有害度の判定			
						V <sub>1</sub> (ml)	V <sub>2</sub> (ml)	V <sub>3</sub> (ml)	Rc	平均値	V (ml)	C (mg/l)	Sc	吸光度法		質量法		原子吸光度法				
														平均値	Sc	平均値	Sc	平均値		Sc	平均値	Sc
			1																			
			2																			
			3																			
			1																			
			2																			
			3																			
			1																			
			2																			
			3																			
備考																						



様式 20

骨材のアルカリシリカ反応性試験(モルタルバー法)

(JIS A 5308、JIS A 1146)

工事名 \_\_\_\_\_

受注会社名 \_\_\_\_\_

工種名 \_\_\_\_\_

測定者 \_\_\_\_\_ 印

試験日	平成 年 月 日		曜 天候				
試験日の状態	気温 (°C)	室温 (°C)	容器内温度 (°C)	容器内湿度 (%)			
セメント	種別 全アルカリ						
骨材	産地 種別						
区分	材 齢	脱型時	2週間	4週間	8週間	3ヶ月	6ヶ月
① 基長 L (有効ゲージ長) ( $\times 10^{-3}$ mm)	1						
	2						
	3						
② 供試体脱型時のダイヤル ゲージの読み $X_{ini}$ ( $\times 10^{-3}$ mm)	1						
	2						
	3						
③ 同時測定した標準尺のダ イヤルゲージの読み $sX_{ini}$ ( $\times 10^{-3}$ mm)	1						
	2						
	3						
④ 材齢における供試体のダ イヤルゲージの読み $X_i$ ( $\times 10^{-3}$ mm)	1						
	2						
	3						
⑤ 材齢における標準尺のダ イヤルゲージの読み $sX_i$ ( $\times 10^{-3}$ mm)	1						
	2						
	3						
⑥ 膨張率 (%) $\frac{(\text{④}-\text{⑤})-(\text{②}-\text{③})}{L} \times 100$	1						
	2						
	3						
	平均						
判 定							
精 度							
考 察							
-----							
-----							
-----							
-----							



鉄筋の引張試験  
(JIS G 3112、JIS Z 2241)

工事名 \_\_\_\_\_ 受注会社名 \_\_\_\_\_

工種名 \_\_\_\_\_ 測定者 \_\_\_\_\_ 印

試験日	平成 年 月 日		曜	天候
試験日の状態	気温 (°C)		室温 (°C)	
試験料	-----			
試験料番号				
呼び径 (mm)				
実測径 (mm)	最大径			
	最小径			
	平均			
断面積 (mm <sup>2</sup> )				
種別				
記号				
標点距離 (mm)				
降伏点荷重 (N)				
降伏点 (N/mm <sup>2</sup> )				
引張荷重 (N)				
引張強さ (N/mm <sup>2</sup> )				
伸び	(mm)			
	(%)			
切断位置による記号				
試験片				
判定				
考察	-----			
	-----			
	-----			
	-----			
	-----			
	-----			
	-----			
	-----			

(土質関係)

様式 23

土の含水比試験  
(JIS A 1203、JGS0121)

工事名 \_\_\_\_\_ 試験日 平成 年 月 日 受注会社名 \_\_\_\_\_  
工種名 \_\_\_\_\_ 試料採取地点 \_\_\_\_\_ 測定者 \_\_\_\_\_ 印 \_\_\_\_\_

試料番号(深さ)						
容器 NO.						
$m_a$ g						
$m_b$ g						
$m_c$ g						
w %						
平均値 w %						
特記事項						

試料番号(深さ)						
容器 NO.						
$m_a$ g						
$m_b$ g						
$m_c$ g						
w %						
平均値 w %						
特記事項						

試料番号(深さ)						
容器 NO.						
$m_a$ g						
$m_b$ g						
$m_c$ g						
w %						
平均値 w %						
特記事項						

試料番号(深さ)						
容器 NO.						
$m_a$ g						
$m_b$ g						
$m_c$ g						
w %						
平均値 w %						
特記事項						

試料番号(深さ)						
容器 NO.						
$m_a$ g						
$m_b$ g						
$m_c$ g						
w %						
平均値 w %						
特記事項						

$$w = \frac{m_a - m_b}{m_b - m_c} \times 100$$

$m_a$  : (試料+容器)質量  
 $m_b$  : (炉乾燥試料+容器)質量  
 $m_c$  : 容器質量

(社)地盤工学会規格準用

砂置換法による土の密度試験(校正)  
(JIS A 1214)

工事名 \_\_\_\_\_ 受注会社名 \_\_\_\_\_ 試験日 平成 年 月 日

工種名 \_\_\_\_\_ 測定者 \_\_\_\_\_ 印 \_\_\_\_\_

I. ジャーとピクノメータートップとの体積の校正

測定 NO.	1	2	3	4	5
ジャーとピクノメータートップに水を満たした質量 $m_2$ g					
測定器の質量 $m_1$ g					
満たした水の質量 $m_2 - m_1$ g					
測定器中の水の温度 $t$ °C					
$t$ °Cにおける水1g当たりの体積 $K$ cm <sup>3</sup> /g					
ジャーとピクノメータートップとの体積 $V_1 = K(m_2 - m_1)$ cm <sup>3</sup>					
平均値 $V_1$ cm <sup>3</sup>					

II. 試験用砂の乾燥密度の校正

測定 NO.	1	2	3	4	5
ジャーとピクノメータートップに砂を満たした質量 $m_3$ g					
測定器の質量 $m_1$ g					
測定器中の砂の質量 $m_4 = m_3 - m_1$ g					
試験用砂の乾燥密度 $\rho_{ds} = m_4 / V_1$ g/cm <sup>3</sup>					
平均値 $\rho_{ds}$ g/cm <sup>3</sup>					

III. 漏斗を満たすのに必要な砂の質量の校正

測定 NO.	1	2	3	4	5
測定器と入れた砂の質量 $m_3'$ g					
漏斗を満たした砂を除き測定器と残った砂の質量 $m_5$ g					
漏斗を満たすのに必要な砂の質量 $m_6 = m_3' - m_5$ g					
平均値 $m_6$ g					

特記事項

砂置換法による土の密度試験(測定)  
(JIS A 1214)

工事名 \_\_\_\_\_ 受注会社名 \_\_\_\_\_ 試験日 平成 年 月 日

工種名 \_\_\_\_\_ 測定者 \_\_\_\_\_ 印 \_\_\_\_\_

測定器 NO.	土質名称
試験用砂の乾燥密度 $\rho_{ds}$ g/cm <sup>3</sup>	漏斗を満たすのに必要な砂の質量 $m_6$ g
試験孔 NO.	
最大粒径 mm	
容器 NO.	
容器質量 g	
(試験孔から取り出した土 + 容器) 質量 g	
試験孔から取り出した湿潤土の質量 $m_7$ g	
試験孔から取り出した土の炉乾燥質量 $m_0 = 100m_7 / (w + 100)$ g	
ジャーとピクノメータトップに砂を満たした質量 $m_3$ g	
測定器と残った砂の質量 $m_8$ g	
試験孔および漏斗に入れた砂の質量 $m_9 = m_3 - m_8$ g	
試験孔を満たすのに要する砂の質量 $m_{10} = m_9 - m_6$ g	
試験孔の体積 $V_0 = m_{10} / \rho_{ds}$ cm <sup>3</sup>	
湿潤密度 $\rho_t = m_7 / V_0$ g/cm <sup>3</sup>	
乾燥密度 $\rho_d = m_0 / V_0$ g/cm <sup>3</sup>	
容器 NO.	
(試料 + 容器) 質量 $m_a$ g	
(炉乾燥試料 + 容器) 質量 $m_b$ g	
容器質量 $m_c$ g	
w %	
容器 NO.	
(試料 + 容器) 質量 $m_a$ g	
(炉乾燥試料 + 容器) 質量 $m_b$ g	
容器質量 $m_c$ g	
w %	
平均値 w %	
含水比 w %	
湿潤密度 $\rho_t$ g/cm <sup>3</sup>	
乾燥密度 $\rho_d$ g/cm <sup>3</sup>	

特記事項

$$w = \frac{m_a - m_b}{m_b - m_c} \times 100$$

土の収縮定数試験  
(JIS A 1209、JGS 0145)

工事名 \_\_\_\_\_ 受注会社名 \_\_\_\_\_ 試験日 平成 年 月 日

工種名 \_\_\_\_\_ 測定者 \_\_\_\_\_ 印 \_\_\_\_\_

試料番号 (深さ)						
測定 NO.						
収縮皿 NO.						
湿潤試料の体積	ガラス板の質量 $m_g$ g					
	収縮皿の質量 $m_c$ g					
	水の入った収縮皿とガラス板の質量 $m$ g					
	水の温度 $T$ °C					
	水の密度 $\rho_w$ g/cm <sup>3</sup>					
	湿潤試料の体積 $V$ cm <sup>3</sup>					
炉乾燥試料の体積	パラフィン塗布後の試料の質量 $m_1$ g					
	水中における吊り皿の見掛けの質量 $m_2$ g					
	水中における試料および吊り皿の見掛け質量 $m_3$ g					
	炉乾燥試料の質量 $m_s$ g					
	パラフィンの密度 $\rho_p$ g/cm <sup>3</sup>					
	炉乾燥試料の体積 $V_o$ cm <sup>3</sup>					
含水比	湿潤試料と収縮皿の質量 $m_a$ g					
	湿潤試料の含水比 $w$ %					
	平均値 $w$ %					
収縮限界	収縮限界 $w_s$ %					
	平均値 $w_s$ %					
収縮比	収縮比 $R$					
	平均値 $R$					
ある含水比 $w_1$ %						
体積収縮率 $C$ %						
線収縮 $L_s$ %						

特記事項

$$V = \frac{(m - m_c - m_g)}{\rho_w}$$

$$V_o = \frac{(m_1 - m_3 + m_2)}{\rho_w} - \frac{(m_1 - m_s)}{\rho_p}$$

$$w_s = w - \frac{(V - V_o)\rho_w}{m_s} \times 100$$

$$w = \frac{(m_a - m_c - m_s)}{m_s} \times 100$$

$$R = \frac{m_s}{V_o \cdot \rho_w}$$

$$L_s = \left[ 1 - \sqrt[3]{\frac{100}{C + 100}} \right] \times 100$$

$$C = (w_1 - w_s)R$$

CBR試験(初期状態、吸水膨張試験)

(JIS A 1211、JGS 0721)

工事名 \_\_\_\_\_ 試験日 平成 年 月 日 \_\_\_\_\_ 受注会社名 \_\_\_\_\_

試料採取地点 \_\_\_\_\_ 採取日 平成 年 月 日 \_\_\_\_\_ 測定者 \_\_\_\_\_ 印 \_\_\_\_\_

試験方法	締固めた土、乱さない土	ランマー質量	kg	土質名称		
突き固め方法		落下高さ	cm	自然含水比 $w_n$	%	
試料準備	準備方法	非乾燥法、空気乾燥法	突固め回数 回/層	最適含水比 $w_{opt}$	%	
	空気乾燥前含水比 %		突固め層数 層	最大乾燥密度 $\rho_{dmax}$	g/cm <sup>3</sup>	
備	試料調整後含水比 $w_o$ %	モールド	内径	cm	荷重板質量	kg
			高さ <sup>1)</sup>	cm	モールド容量 $V$	cm <sup>3</sup>

供試体 NO.								
含水比	容器 NO.							
	(試料+容器)質量 $m_a$	g						
	(炉乾燥試料+容器)質量 $m_b$	g						
	容器質量 $m_c$	g						
	含水比 $w_1$	%						
平均値 $w_1$		%						
密度	(試料+モールド)質量 $m_2$ <sup>2)</sup>	g						
	モールド質量 $m_1$ <sup>2)</sup>	g						
	湿潤密度 $\rho_t$	g/cm <sup>3</sup>						
	乾燥密度 $\rho_d$	g/cm <sup>3</sup>						
吸水膨張試験	水浸時間 $h$	時刻	変位計の読み	膨張量mm	変位計の読み	膨張量mm	変位計の読み	膨張量mm
	0							
	1							
	2							
	4							
	8							
	24							
	48							
	72							
	96							
	(試料+モールド)質量 $m_3$ <sup>2)</sup>	g						
	膨張比 $\gamma_e$	%						
	湿潤密度 $\rho_t'$	g/cm <sup>3</sup>						
	乾燥密度 $\rho_d'$	g/cm <sup>3</sup>						
	平均含水比 $w'$	%						

特記事項

- 1) スペーサーディスクの高さを差引く
- 2) モールドの質量は有孔底板を含む

$$\gamma_e = \frac{\text{供試体の膨張量 (mm)}}{\text{供試体の最初の高さ (125mm)}} \times 100$$

$$\rho_t' = \frac{m_3 - m_1}{v(1 + \gamma_e/100)} \quad \rho_t = \frac{m_2 - m_1}{V}$$

$$\rho_d' = \frac{\rho_d}{1 + \gamma_e/100} \quad \rho_d = \frac{\rho_t}{1 + w_1/100}$$

$$w' = \left[ \frac{\rho_t'}{\rho_d'} - 1 \right] \times 100 \quad w_1 = \frac{m_a - m_b}{m_b - m_c} \times 100$$

(社)地盤工学会規格準用



**C B R 試 験 ( 貫 入 試 験 )**  
(JIS A 1211、JGS 0721)

工 事 名 \_\_\_\_\_ 試験日 平成 年 月 日 \_\_\_\_\_ 受注会社名 \_\_\_\_\_

試料採取地点 \_\_\_\_\_ 採取日 平成 年 月 日 \_\_\_\_\_ 測定者 \_\_\_\_\_ 印 \_\_\_\_\_

試 験 条 件		水浸、非水浸		貫入速さ mm/min				荷重板質量 kg							
養 生 条 件		日 空 気 中		荷 重 計 NO.				貫入スピンドルの断面積 cm <sup>2</sup>							
		日 水 浸		容 量 kN				較正係数 $\frac{MN/m^2}{目盛}$ $\frac{kN}{目盛}$							
供 試 体 NO.				供 試 体 NO.				供 試 体 NO.							
貫 入 量 mm		荷重強さ、荷重		貫 入 量 mm		荷重強さ、荷重		貫 入 量 mm		荷重強さ、荷重					
読み		平均	荷重計 の読み	MN/m <sup>2</sup> kN	読み		荷重計 の読み	MN/m <sup>2</sup> kN	読み		平均	荷重計 の読み	MN/m <sup>2</sup> kN		
1	2				1	2			1	2					
0					0				0						
0.5					0.5				0.5						
1.0					1.0				1.0						
1.5					1.5				1.5						
2.0					2.0				2.0						
2.5					2.5				2.5						
3.0					3.0				3.0						
4.0					4.0				4.0						
5.0					5.0				5.0						
7.5					7.5				7.5						
10.0					10.0				10.0						
12.5					12.5				12.5						
貫入試験後の 含水比	容器NO.				貫入試験後の 含水比	容器NO.				貫入試験後の 含水比	容器NO.				
	m <sub>a</sub> g					m <sub>a</sub> g					m <sub>a</sub> g				
	m <sub>b</sub> g					m <sub>b</sub> g					m <sub>b</sub> g				
	m <sub>c</sub> g					m <sub>c</sub> g					m <sub>c</sub> g				
	w <sub>2</sub> %					w <sub>2</sub> %					w <sub>2</sub> %				
平均値 w <sub>2</sub> %				平均値 w <sub>2</sub> %				平均値 w <sub>2</sub> %							

特記事項

$$w_2 = \frac{m_a - m_b}{m_b - m_c} \times 100$$

m<sub>a</sub> : (試料+容器)質量

m<sub>b</sub> : (炉乾燥試料+容器)質量

m<sub>c</sub> : 容器質量

[1MN/m<sup>2</sup> ≒ 10.2kgf/cm<sup>2</sup>]

[1kN ≒ 102kgf]

(社)地盤工学会規格準用

**CBR試験(室内試験結果)**  
(JIS A 1211、JGS 0721)

工事名 \_\_\_\_\_ 試験日 平成 年 月 日 受注会社名 \_\_\_\_\_

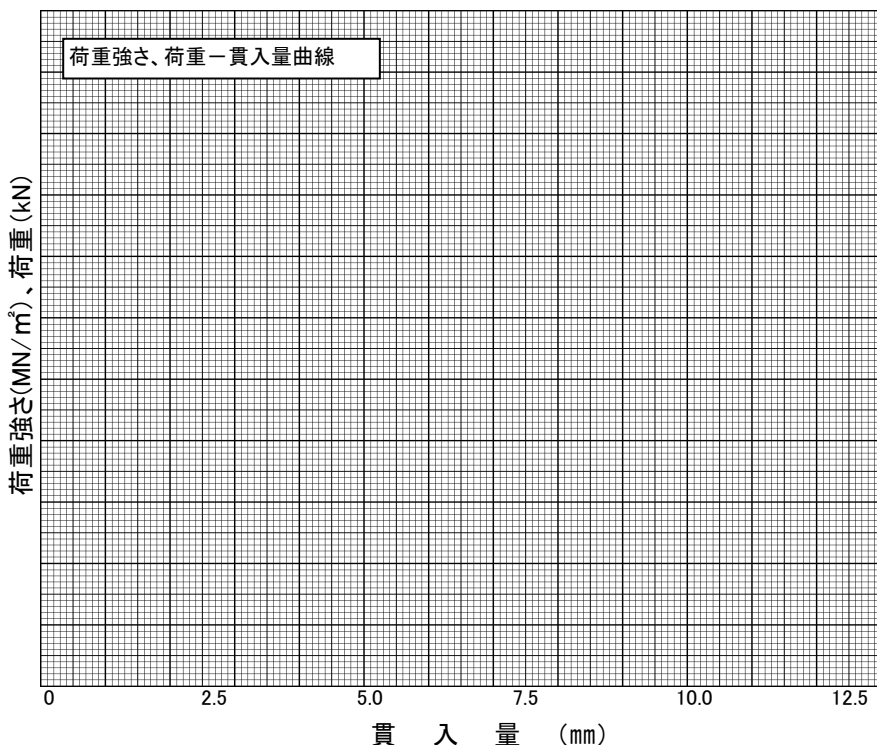
試料採取地点 \_\_\_\_\_ 採取日 平成 年 月 日 測定者 \_\_\_\_\_ 印 \_\_\_\_\_

試験方法	締固めた土、乱さない土	ランマー質量	kg		土質名称
突固め方法		落下高さ	cm		空気乾燥前含水比 %
試料の準備方法	非乾燥法、空気乾燥法	突固め回数	回/層		自然含水比 $w$ %
試験条件	水浸、非水浸	突固め層数	層		最適含水比 $w_{opt}$ %
養生条件	日空气中	モールド	内径	cm	最大乾燥密度 $\rho_{dmax}$ g/cm <sup>3</sup>
	日水浸		高さ <sup>1)</sup>	cm	

供試体 NO.				
吸水膨張試験	前	含水比 $w$ %		
		乾燥密度 $\rho_d$ g/cm <sup>3</sup>		
	後	膨張比 $\gamma_e$ %		
		平均含水比 $w'$ %		
		乾燥密度 $\rho'_d$ g/cm <sup>3</sup>		
貫入試験		試験後の含水比 $w_2$ %		
		貫入量2.5mmにおけるCBR %		
		貫入量5.0mmにおけるCBR %		
		CBR %		

平均CBR %

---



特記事項

- 1) スペーサーディスクの高さを差引く。

[1MN/m<sup>2</sup> ≒ 10.2kgf/cm<sup>2</sup>]  
[1kN ≒ 102kgf]

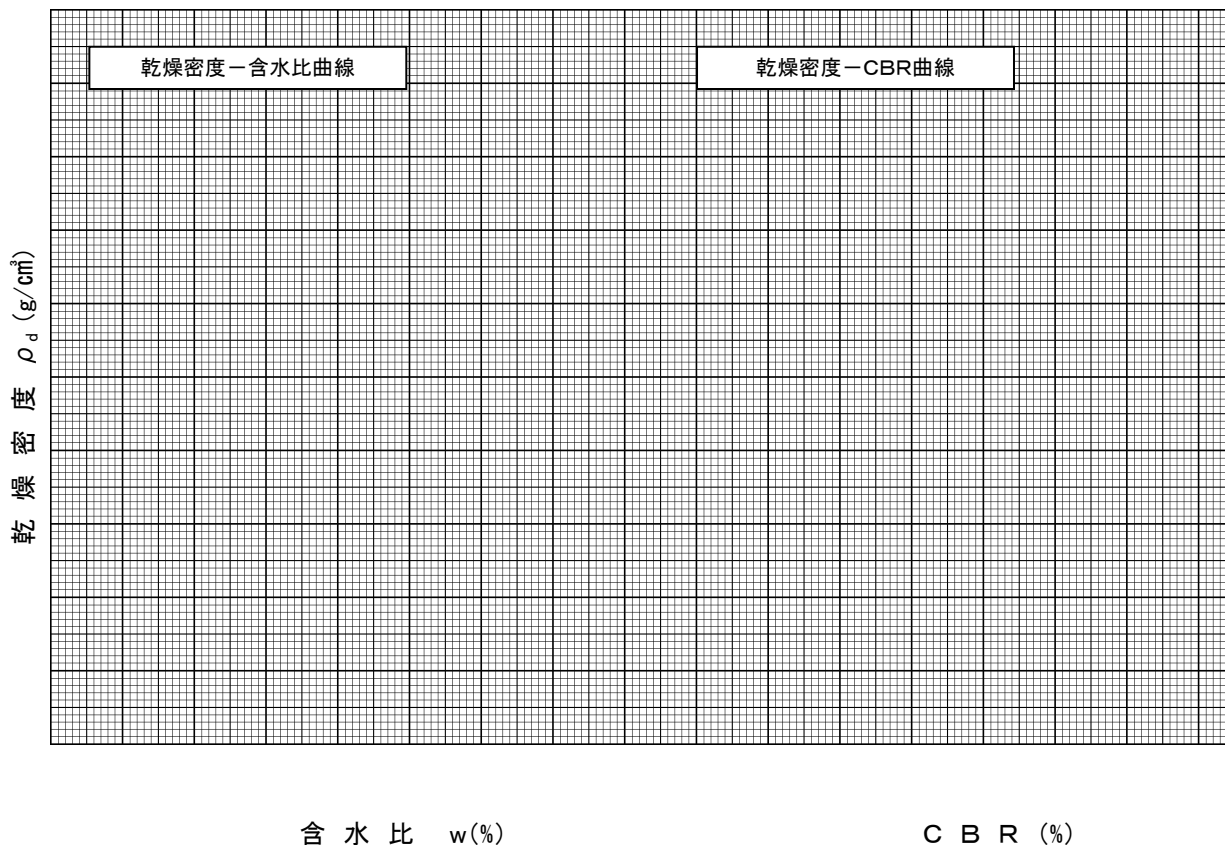
貫入量mm		2.5	5.0
荷重強さ重	供試体 NO.		
	供試体 NO.		
	供試体 NO.		
標準荷重強さ MN/m <sup>2</sup>		6.9	10.3
標準荷重 kN		13.4	19.9

修正 C B R 試験

工事名 \_\_\_\_\_ 試験日 平成 年 月 日 受注会社名 \_\_\_\_\_

試料採取地点 \_\_\_\_\_ 採取日 平成 年 月 日 測定者 \_\_\_\_\_ 印 \_\_\_\_\_

突固め回数	回/層	(層)			(層)			(層)		
供試体 NO.										
乾燥密度 $\rho_d$	$g/cm^3$									
平均値 $\rho_d$	$g/cm^3$									
貫入量2.5mmにおけるCBR	%									
平均値	%									
貫入量5.0mmにおけるCBR	%									
平均値	%									
ランマー質量	kg	最大乾燥密度 $\rho_{dmax}$ $g/cm^3$			締固め度 %					
		最適含水比 $w_{opt}$ %			修正CBR %					



特記事項 \_\_\_\_\_

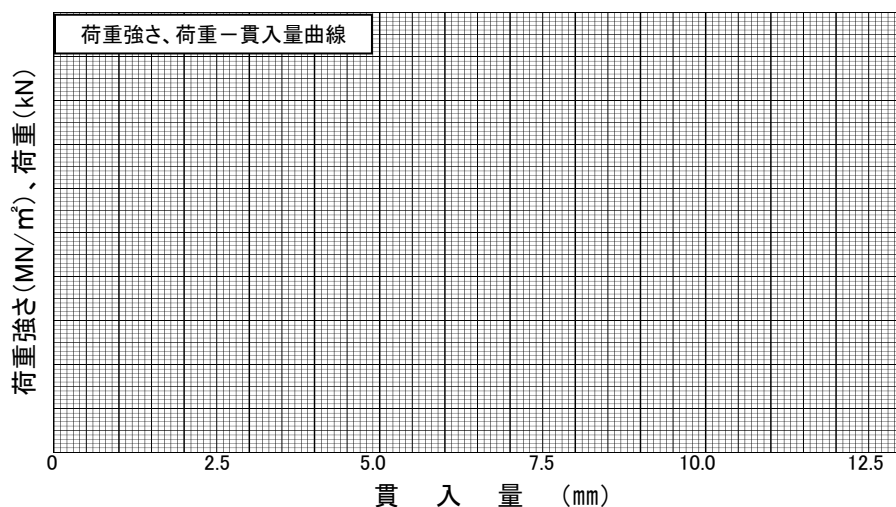
現場 C B R 試験  
(JIS A 1222)

工事名 \_\_\_\_\_ 試験日 平成 年 月 日 \_\_\_\_\_ 受注会社名 \_\_\_\_\_

試料採取地点 \_\_\_\_\_ 採取日 平成 年 月 日 \_\_\_\_\_ 測定者 \_\_\_\_\_ 印 \_\_\_\_\_

貫入スピンドル直径 cm		貫入スピンドル面積 m <sup>2</sup>		貫入速度 mm/min	
ジャッキの種類		ジャッキの能力 kN		反力装置の種類	
荷重計容量 kN		荷重計の MN/m <sup>2</sup> /目盛 校正係数 kN/目盛		天	候

測点 NO.		貫入量の読み mm 貫入量の読み の平均値 mm	荷重計 の読み	荷重強さ, 荷重 MN/m <sup>2</sup> ,kN	測点 NO.		貫入量の読み mm 貫入量の読み の平均値 mm	荷重計 の読み	荷重強さ, 荷重 MN/m <sup>2</sup> ,kN
1	2				1	2			
0.0					0.0				
0.5					0.5				
1.0					1.0				
1.5					1.5				
2.0					2.0				
2.5					2.5				
3.0					3.0				
4.0					4.0				
5.0					5.0				
7.5					7.5				
10.0					10.0				
12.5					12.5				
貫入量2.5mmにおけるCBR		%		貫入量2.5mmにおけるCBR		%			
貫入量5.0mmにおけるCBR		%		貫入量5.0mmにおけるCBR		%			
CBR		%		CBR		%			
試験箇所の含水比 w		%		試験箇所の含水比 w		%			



貫入量mm	2.5	5.0
荷重強さ		
測点 NO.		
測点 NO.		
標準荷重強さ MN/m <sup>2</sup>	6.9	10.3
標準荷重 kN	13.4	19.9

特記事項

[1kN ≒ 102kgf]  
[1MN/m<sup>2</sup> ≒ 10.2kgf/cm<sup>2</sup>]

(社)地盤工学会規格準用

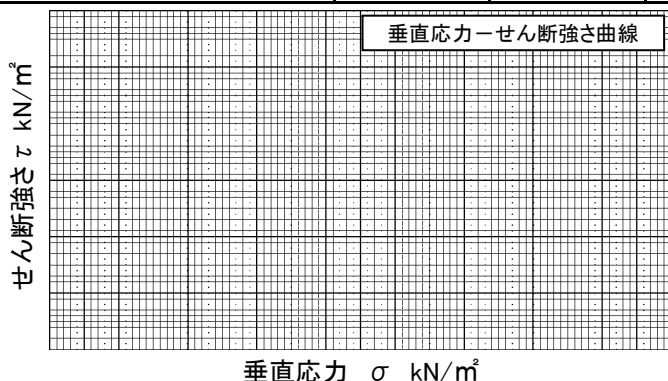


土の直接せん断試験

工事名 \_\_\_\_\_  
 調査名・目的 \_\_\_\_\_  
 試料番号 \_\_\_\_\_  
 試料 \_\_\_\_\_ ・乱さない ・乱した  
 試料採取深さ \_\_\_\_\_  
 試験機の型 \_\_\_\_\_  
 供試体の断面積 \_\_\_\_\_ m<sup>2</sup>  
 供試体初期厚さ \_\_\_\_\_ cm  
 供試体初期体積 V \_\_\_\_\_ cm<sup>3</sup>  
 水の密度 ρ<sub>w</sub> \_\_\_\_\_ g/cm<sup>3</sup>

試験日 平成 年 月 日  
 試験方法 : 圧密排水・圧密非排水・非圧密非排水  
 せん断方法 : 応力制御・ひずみ制御  
 せん断速度 (載荷速度) \_\_\_\_\_ kN/m<sup>2</sup>/min  
 せん断力測定用ブルーピングリング NO \_\_\_\_\_  
 換算係数 \_\_\_\_\_ kN/  $\frac{1}{100}$  mm (kN/m<sup>2</sup>/目盛)  
 先行圧密応力 \_\_\_\_\_ kN/m<sup>2</sup>  
 土粒子の密度 G<sub>s</sub> \_\_\_\_\_ g/cm<sup>3</sup>  
 受注会社名 \_\_\_\_\_  
 測定者 \_\_\_\_\_ 印

供試体番号		1	2	3	4	5	6
初期の状態	供試体質量 m	g					
	湿潤密度 ρ <sub>t</sub> = $\frac{m}{V}$	g/cm <sup>3</sup>					
	含水比 w	%					
	乾燥密度 ρ <sub>d</sub> = $\frac{100 \cdot \rho_t}{100+w}$	g/cm <sup>3</sup>					
	間隙比 e = $\frac{G_s \cdot \rho_w}{\rho_d} - 1$						
飽和度 s <sub>r</sub> = w · G <sub>s</sub> / e	%						
圧密の状態	せん断時の垂直応力 σ	kN/m <sup>2</sup>					
	載荷(圧密)時間						
	沈下量	cm					
圧密後の状態	供試体体積 V'	cm <sup>3</sup>					
	供試体質量 m'	g					
	湿潤密度 ρ <sub>t</sub> = $\frac{m'}{V'}$	g/cm <sup>3</sup>					
	含水比 w'	%					
	乾燥密度 ρ' <sub>d</sub> = $\frac{100 \cdot \rho_t}{100+w'}$	g/cm <sup>3</sup>					
	間隙比 e' = $\frac{G_s \cdot \rho_w}{\rho'_d}$						
飽和度 s' <sub>r</sub> = w' · G <sub>s</sub> / e	%						
せん断時の垂直応力		kN/m <sup>2</sup>					
せん断強さ τ		kN/m <sup>2</sup>					



粘着力 C = \_\_\_\_\_ kN/m<sup>2</sup>  
 内部摩擦角 φ = \_\_\_\_\_  
 tan φ = \_\_\_\_\_  
 先行圧密応力に対するせん断強さ  
 τ<sub>o</sub> = \_\_\_\_\_ kN/m<sup>2</sup>

注) 含水比の測定は含水量測定試験試料は標準欄フルイ25.4mm \_\_\_\_\_ による

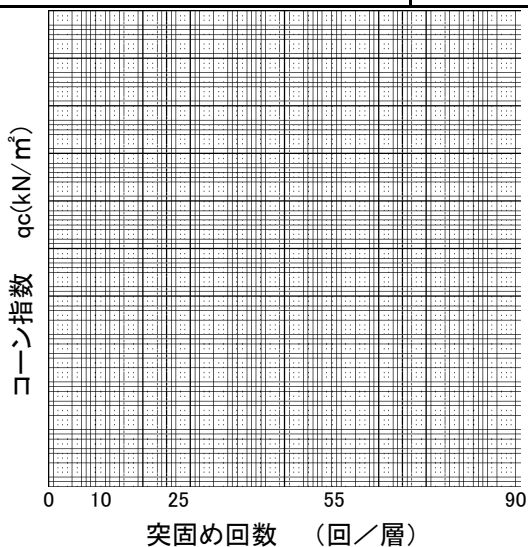


**締固めた土のコーン指数試験**  
(JIS A 1228、JGS 0716)

工事名 \_\_\_\_\_ 試験日 平成 年 月 日 受注会社名 \_\_\_\_\_

試料採取地点 \_\_\_\_\_ 採取日 平成 年 月 日 測定者 \_\_\_\_\_ 印 \_\_\_\_\_

土質名称		モールド	NO.		荷重計	NO.				
土粒子の密度 $\rho_s$ g/cm <sup>3</sup>			容量 V cm <sup>3</sup>	1000		容量 N				
コーンの底面積 A m <sup>2</sup>	3.24		(モールド+底板)質量 m <sub>1</sub> g			校正係数 K N/目盛				
突 固 め 回 数 回/層			10		25		55		90	
含水比	容器 NO.									
	(試料+容器)質量 m <sub>a</sub> g									
	(炉乾燥試料+容器)質量 m <sub>b</sub> g									
	容器質量 m <sub>c</sub> g									
	w %									
平均値 w %										
供試体	(供試体+モールド+底板)質量 m <sub>2</sub> g									
	湿潤密度 $\rho_t$ g/cm <sup>3</sup>									
	乾燥密度 $\rho_d$ g/cm <sup>3</sup>									
	飽和度 S <sub>r</sub> %									
	空気間隙率 U <sub>a</sub> %									
コーン指数	貫入抵抗力 N	貫入量	荷重計の読み	貫入抵抗力	荷重計の読み	貫入抵抗力	荷重計の読み	貫入抵抗力	荷重計の読み	貫入抵抗力
		5 cm								
		7.5 cm								
		10 cm								
	平均貫入抵抗力 Q <sub>c</sub> N									
コーン指数 q <sub>c</sub> kN/m <sup>2</sup>										



特記事項

- 1) 突固め回数が1種類の場合は記入の必要はない

水の密度  $\rho_w$  g/cm<sup>3</sup>

$$w = [(m_a - m_b) / (m_b - m_c)] \times 100$$

$$\rho_t = \frac{m_2 - m_1}{V}$$

$$\rho_d = \frac{\rho_t}{1 + w/100}$$

$$S_r = \frac{w}{\rho_w / \rho_d - \rho_w / \rho_s}$$

$$U_a = \left\{ 1 - \frac{\rho_d}{\rho_w} \left[ \frac{\rho_w}{\rho_s} + \frac{w}{100} \right] \right\} \times 100$$

$$q_c = \frac{Q_c}{A} \times 10$$

[1kN ≒ 102kgf]

[1kN/m<sup>2</sup> ≒ 0.0102kgf/cm<sup>2</sup>]



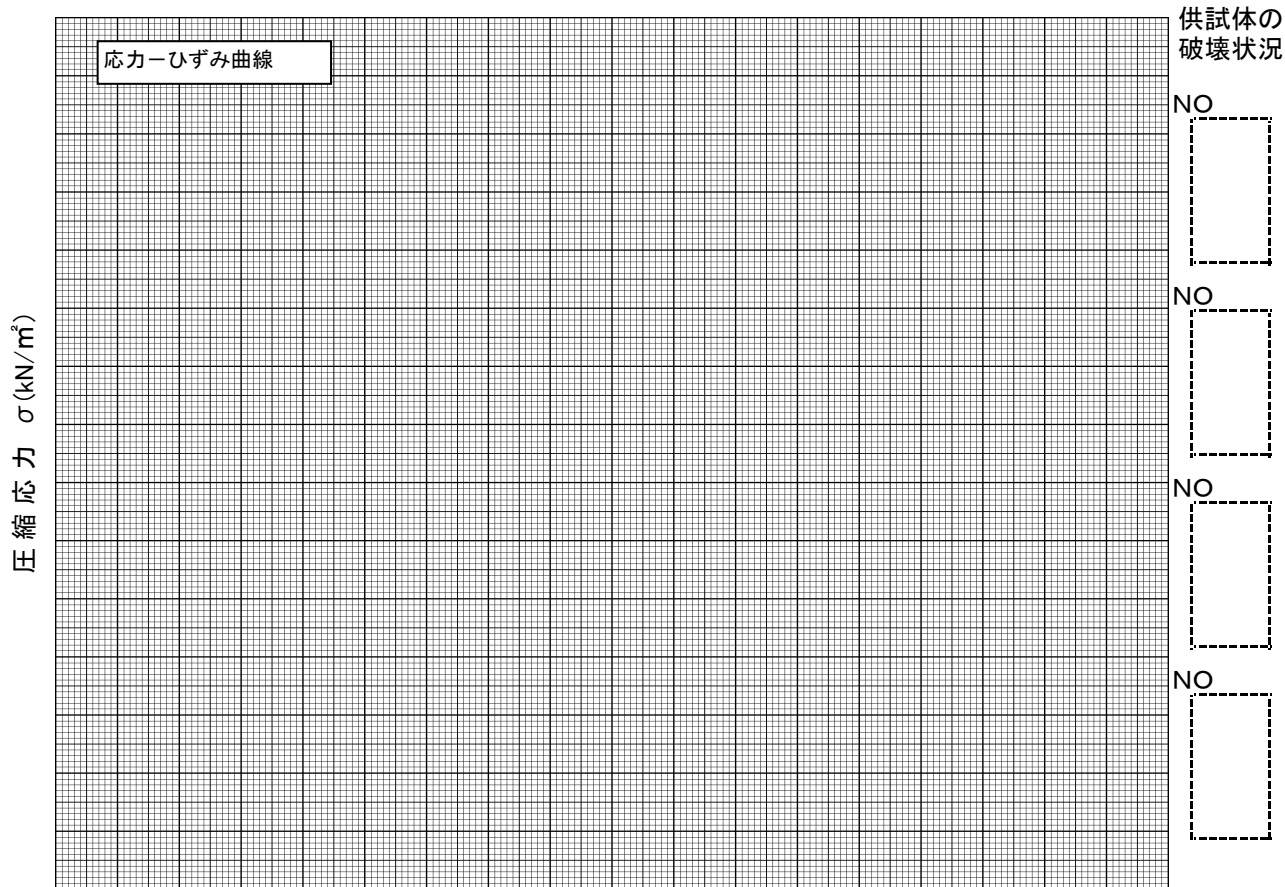


土の一軸圧縮試験(強度・変形特性)  
(JIS A 1216、JGS 0511)

工事名 \_\_\_\_\_ 受注会社名 \_\_\_\_\_ 試験日 平成 年 月 日

工種名 \_\_\_\_\_ 測定者 \_\_\_\_\_ 印 \_\_\_\_\_

土質名称		供試体 NO.			
液性限界 $w_L^{1)}$ %		試験の状態			
塑性限界 $w_p^{1)}$ %		高さ $H_0$ cm			
ひずみ速度 %/min		直径 $D_0$ cm			
特記事項 1) 必要に応じて記載する。  $E_{50} = \frac{q_u}{\frac{2}{\epsilon_{50}}} / 10$		質量 m g			
		湿潤密度 $\rho_t^{1)}$ g/cm <sup>3</sup>			
		含水比 w %			
		一軸圧縮強さ $q_u$ kN/m <sup>2</sup>			
		破壊ひずみ $\epsilon_f$ %			
		変形係数 $E_{50}^{1)}$ MN/m <sup>2</sup>			
		鋭敏比 $S_t^{1)}$			



圧縮ひずみ  $\epsilon$  (%)

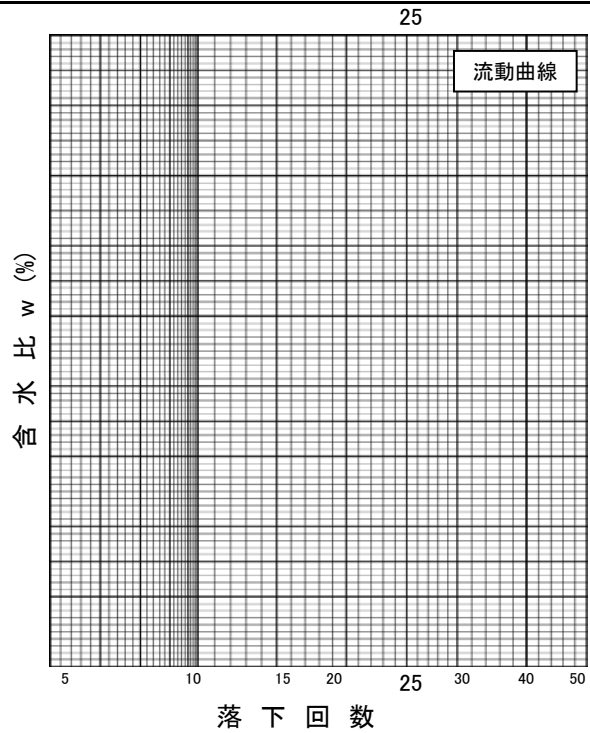
[1kN/m<sup>2</sup> ≒ 0.0102kgf/cm<sup>2</sup>]  
[1MN/m<sup>2</sup> ≒ 10.2kgf/cm<sup>2</sup>]

土の液性限界・塑性限界試験(測定)  
(JIS A 1205、JGS 0141)

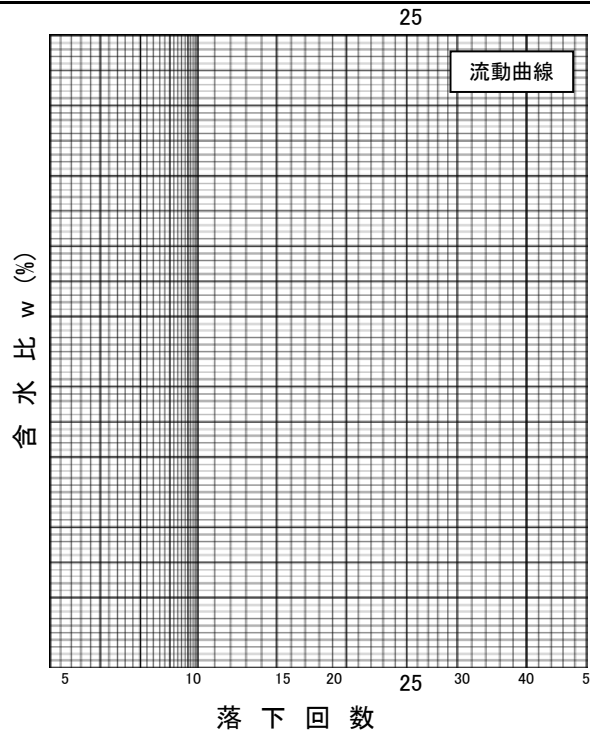
工事名 \_\_\_\_\_ 受注会社名 \_\_\_\_\_ 試験日 平成 年 月 日

工種名 \_\_\_\_\_ 測定者 \_\_\_\_\_ 印 \_\_\_\_\_

試料番号(深さ)			
液性限界試験			
落下回数			
含水比	容器 NO.		
	$m_a$ g		
	$m_b$ g		
	$m_c$ g		
	w %		
落下回数			
含水比	容器 NO.		
	$m_a$ g		
	$m_b$ g		
	$m_c$ g		
	w %		
塑性限界試験			
含水比	容器 NO.		
	$m_a$ g		
	$m_b$ g		
	$m_c$ g		
	w %		
液性限界 $W_L$ %	塑性限界 $W_P$ %	塑性指数 $I_p$	



試料番号(深さ)			
液性限界試験			
落下回数			
含水比	容器 NO.		
	$m_a$ g		
	$m_b$ g		
	$m_c$ g		
	w %		
落下回数			
含水比	容器 NO.		
	$m_a$ g		
	$m_b$ g		
	$m_c$ g		
	w %		
塑性限界試験			
含水比	容器 NO.		
	$m_a$ g		
	$m_b$ g		
	$m_c$ g		
	w %		
液性限界 $W_L$ %	塑性限界 $W_P$ %	塑性指数 $I_p$	



特記事項  $I_p = W_L - W_P$   $w = \frac{m_a - m_b}{m_b - m_c} \times 100$

$m_a$  : (試料+容器)質量  
 $m_b$  : (炉乾燥試料+容器)質量  
 $m_c$  : 容器質量

土の液性限界・塑性限界試験(試験結果)  
(JIS A 1205、JGS 0141)

工事名 \_\_\_\_\_ 受注会社名 \_\_\_\_\_ 試験日 平成 年 月 日

工種名 \_\_\_\_\_ 測定者 \_\_\_\_\_ 印 \_\_\_\_\_

試料番号(深さ)

液性限界試験		塑性限界試験	液性限界 $W_L$ %
落下回数	含水比 $w$ %	含水比 $w$ %	
			塑性限界 $W_p$ %
			塑性指数 $I_p$

試料番号(深さ)

液性限界試験		塑性限界試験	液性限界 $W_L$ %
落下回数	含水比 $w$ %	含水比 $w$ %	
			塑性限界 $W_p$ %
			塑性指数 $I_p$

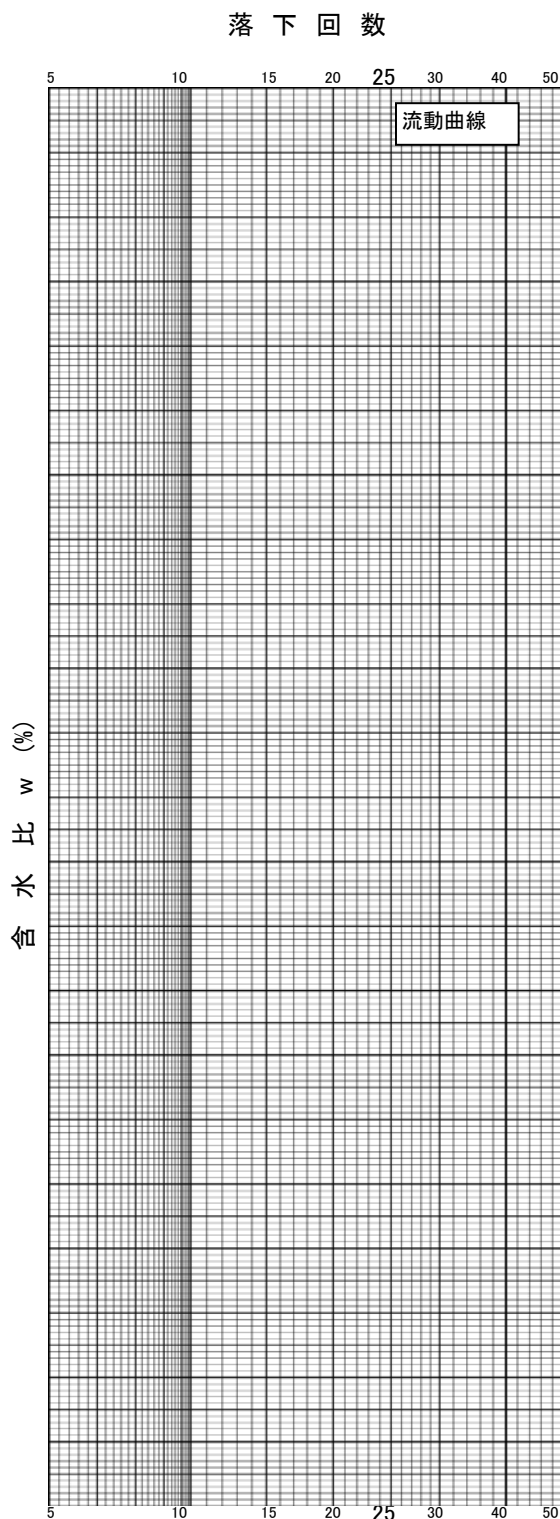
試料番号(深さ)

液性限界試験		塑性限界試験	液性限界 $W_L$ %
落下回数	含水比 $w$ %	含水比 $w$ %	
			塑性限界 $W_p$ %
			塑性指数 $I_p$

試料番号(深さ)

液性限界試験		塑性限界試験	液性限界 $W_L$ %
落下回数	含水比 $w$ %	含水比 $w$ %	
			塑性限界 $W_p$ %
			塑性指数 $I_p$

特記事項



土粒子の密度試験（検定、測定）  
(JIS A 1202、JGS 0111)

工事名 \_\_\_\_\_ 試験日 平成 年 月 日 \_\_\_\_\_ 受注会社名 \_\_\_\_\_

工種名 \_\_\_\_\_ 試料採取地点 \_\_\_\_\_ 測定者 \_\_\_\_\_ 印 \_\_\_\_\_

試料番号（深さ）						
ピクノメーター NO.						
ピクノメーターの質量 $m_f$ g						
(蒸留水+ピクノメーター)質量 $m'_a$ g						
$m'_a$ をはかったときの蒸留水の温度 $T'$ °C						
$T'$ °Cにおける蒸留水の密度 $\rho_w(T')$ g/cm <sup>3</sup>						
(試料+蒸留水+ピクノメーター)質量 $m_b$ g						
$m_b$ をはかったときの内容物の温度 $T$ °C						
$T$ °Cにおける蒸留水の密度 $\rho_w(T)$ g/cm <sup>3</sup>						
温度 $T$ °Cの蒸留水を満たしたときの(蒸留水+ピクノメーター)質量 $m_a$ g						
試料の 炉乾燥質量	容器 NO.					
	(炉乾燥試料+容器)質量 g					
	容器質量 g					
$m_s$ g						
土粒子の密度 $\rho_s$ g/cm <sup>3</sup>						
平均値 $\rho_s$ g/cm <sup>3</sup>						

試料番号（深さ）						
ピクノメーター NO.						
ピクノメーターの質量 $m_f$ g						
(蒸留水+ピクノメーター)質量 $m'_a$ g						
$m'_a$ をはかったときの蒸留水の温度 $T'$ °C						
$T'$ °Cにおける蒸留水の密度 $\rho_w(T')$ g/cm <sup>3</sup>						
(試料+蒸留水+ピクノメーター)質量 $m_b$ g						
$m_b$ をはかったときの内容物の温度 $T$ °C						
$T$ °Cにおける蒸留水の密度 $\rho_w(T)$ g/cm <sup>3</sup>						
温度 $T$ °Cの蒸留水を満たしたときの(蒸留水+ピクノメーター)質量 $m_a$ g						
試料の 炉乾燥質量	容器 NO.					
	(炉乾燥試料+容器)質量 g					
	容器質量 g					
$m_s$ g						
土粒子の密度 $\rho_s$ g/cm <sup>3</sup>						
平均値 $\rho_s$ g/cm <sup>3</sup>						

特記事項

$$m_a = \frac{\rho_w(T)}{\rho_w(T')} \times (m'_a - m_f) + m_f$$

$$\rho_s = \frac{m_s}{m_s + (m_a - m_b)} \times \rho_w(T)$$

土の粒度試験（ふるい分析）  
(JIS A 1204、JGS 0131)

工事名 \_\_\_\_\_ 試験日 平成 年 月 日 受注会社名 \_\_\_\_\_

工種名 \_\_\_\_\_ 試料採取地点 \_\_\_\_\_ 測定者 \_\_\_\_\_ 印 \_\_\_\_\_

全 試 料				2mmふるい通過試料(沈降分析を行わない場合)			
含 水 比	容器 NO.			含 水 比	容器 NO.		
	$m_a$ g				$m_a$ g		
	$m_b$ g				$m_b$ g		
	$m_c$ g				$m_c$ g		
	w %				$w_1$ %		
平均値w %			平均値 $w_1$ %				
(全試料+容器)質量 g				(2mmふるい通過試料+容器)質量 g			
容器(NO. )質量 g				容器(NO. )質量 g			
全試料質量 m g				2mmふるい通過試料の質量 $m_1$ g			
全試料の炉乾燥質量 $m_s = \frac{m}{1+w/100}$ g				2mmふるい通過試料の炉乾燥質量 $m_{1s} = \frac{m_1}{1+w_1/100}$ g			
2mmふるい残留分の水洗い後の試料	(試料+容器)質量 g			全試料の炉乾燥質量に対する2mmふるい通過試料の炉乾燥質量比	$\frac{m_s - m_{0s}}{m_s}$		
	容器(NO. )質量 g						
	炉乾燥質量 $m_{0s}$ g						

2mmふるい残留分 $m_{0s}$ のふるい分析

ふるい	容器No.	(残留試料+容器)質量	容器質量	残留試料質量	加積残留試料質量	加積残留率	通過質量百分率P(d)
mm		g	g	$m(d)$ g	$\Sigma m(d)$ g	$\frac{\Sigma m(d)}{m_s} \times 100$ %	$(1 - \frac{\Sigma m(d)}{m_s}) \times 100$ %
75							
53							
37.5							
26.5							
19							
9.5							
4.75							
2							

2mmふるい通過分 $m_{1s}$ のふるい分析(沈降分析を行わない場合)

ふるい	容器No.	(残留試料+容器)質量	容器質量	残留試料質量	加積残留試料質量	加積残留率	加積通過率P	通過質量百分率P(d)
$\mu m$		g	g	$m(d)$ g	$\Sigma m(d)$ g	$\frac{\Sigma m(d)}{m_{1s}} \times 100$ %	$(1 - \frac{\Sigma m(d)}{m_{1s}}) \times 100$ %	$\frac{m_s - m_{0s}}{m_s} \times P$ %
850								
425								
250								
106								
75								

特記事項  $w = \frac{m_a - m_b}{m_b - m_c} \times 100$   $m_a$  : (試料+容器)質量  $m_c$  : 容器質量  
 $m_b$  : (炉乾燥試料+容器)質量

土の粒度試験(2mmふるい通過分分析)  
(JIS A 1204、JGS 0131)

工事名 \_\_\_\_\_ 試験日 平成 年 月 日 受注会社名 \_\_\_\_\_

工種名 \_\_\_\_\_ 試料採取地点 \_\_\_\_\_ 測定者 \_\_\_\_\_ 印 \_\_\_\_\_

2mmふるい通過試料				土粒子の密度 $\rho_s$ g/cm <sup>3</sup>
含水比	容器 NO.			塑性指数 $I_p$
	$m_a$ g			分散装置の容器 NO.
	$m_b$ g			メスシリンダー NO.
	$m_c$ g			浮ひょう NO.
	$w_1$ %			メニスカス補正值 $C_m$
平均値 $w_1$ %				使用した分散剤、溶液濃度、溶液添加量
(沈降分析用試料+容器)質量 g				
容器 (NO. ) 質量 g				全試料の炉乾燥質量に対する2mmふるい通過試料の炉乾燥質量の $\frac{m_s - m_{os}}{m_s}$
沈降分析用試料質量 $m_1$ g				比
沈降分析用試料の炉乾燥質量 $m_{1s} = \frac{m_1}{1 + w_1 / 100}$ g				$M = \frac{V}{m_{1s}} \cdot \frac{\rho_s}{\rho_s - \rho_w} \rho_w \times 100$

沈降分析

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
測定時間	経過時間	浮ひょうの読み		測定時の水温	有効深さ	粒径 d	補正係数	加積通過率 P	通過質量百分率 P(d)
	t min	小数部分 r	$r + C_m$	T °C	L mm	$\sqrt{\frac{30\eta}{g(\rho_s - \rho_w)}} \times \sqrt{\frac{L}{t}}$ ⑥ × $\sqrt{\frac{L}{t}}$ mm	F	$M \times ((3) + F)$ %	$\frac{m_s - m_{os}}{m_s} \times P$ %
	1								
	2								
	5								
	15								
	30								
	60								
	240								
	1440								

ふるい分析(沈降分析を行う場合)

ふるい	容器No.	(残留試料+容器)質量	容器質量	残留試料質量	加積残留試料質量	加積残留率	加積通過率 P	通過質量百分率 P(d)
$\mu m$		g	g	m(d) g	$\Sigma m(d)$ g	$\frac{\Sigma m(d)}{m_{1s}} \times 100$ %	$(1 - \frac{\Sigma m(d)}{m_{1s}}) \times 100$ %	$\frac{m_s - m_{os}}{m_s} \times P$ %
850								
425								
250								
106								
75								

特記事項

懸濁液の体積  $V = 1000 \text{ cm}^3$

T°Cに対する水の密度  $\rho_w$  g/cm<sup>3</sup>

T°Cに対する水の粘性係数  $\eta$  Pa·s

$$w = [(m_a - m_b) / (m_b - m_c)] \times 100$$

$m_a$  : (試料+容器)質量

$m_b$  : (炉乾燥試料+容器)質量

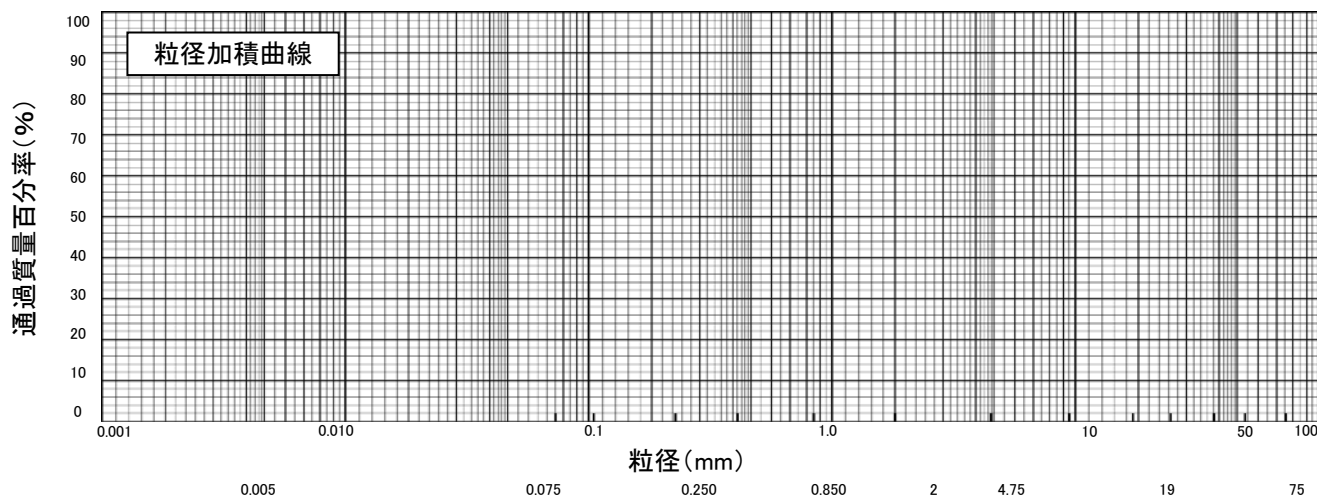
$m_c$  : 容器質量

土の粒度試験(粒径加積曲線)  
(JIS A 1204、JGS 0131)

工事名 \_\_\_\_\_ 試験日 平成 年 月 日 \_\_\_\_\_ 受注会社名 \_\_\_\_\_

工種名 \_\_\_\_\_ 試料採取地点 \_\_\_\_\_ 測定者 \_\_\_\_\_ 印 \_\_\_\_\_

試料番号 (深さ)					試料番号 (深さ)			
	粒径mm	通過質量百分率%	粒径mm	通過質量百分率%	粗礫分 %			
ふるい分析	75		75		中礫分 %			
	53		53		細礫分 %			
	37.5		37.5		粗砂分 %			
	26.5		26.5		中砂分 %			
	19		19		細砂分 %			
	9.5		9.5		シルト分 %			
	4.75		4.75		粘土分 %			
	2		2		2mmふるい通過質量百分率 %			
	0.850		0.850		425μmふるい通過質量百分率 %			
	0.425		0.425		75μmふるい通過質量百分率 %			
	0.250		0.250		最大粒径 mm			
	0.106		0.106		60%粒径 D <sub>60</sub> mm			
0.075		0.075		50%粒径 D <sub>50</sub> mm				
沈降分析					30%粒径 D <sub>30</sub> mm			
					10%粒径 D <sub>10</sub> mm			
					均等係数 U <sub>c</sub>			
					曲率係数 U <sub>c'</sub>			
					土粒子の密度 ρ <sub>s</sub> g/cm <sup>3</sup>			
					使用した分散剤、溶液濃度、溶液添加量			



粘土	シルト	細砂	中砂	粗砂	細礫	中礫	粗礫
----	-----	----	----	----	----	----	----

特記事項 \_\_\_\_\_

(社)地盤工学会規格準用



突固めによる土の締固め試験(測定)

(JIS A 1210、JGS 0711)

工事名 \_\_\_\_\_ 試験日 平成 年 月 日 \_\_\_\_\_ 受注会社名 \_\_\_\_\_

工種名 \_\_\_\_\_ 試料採取地点 \_\_\_\_\_ 測定者 \_\_\_\_\_ 印 \_\_\_\_\_

試験方法		土質名称			
試料の準備方法		乾燥法、湿潤法	ランマー質量 kg	モールド	内径 cm
試料の使用方法		繰返し法、非繰返し法	落下高さ cm		高さ <sup>1)</sup> cm
含水比	試料分取後 w <sub>0</sub> %		突固め回数 回/層		容量 V cm <sup>3</sup>
	乾燥処理後 w <sub>1</sub> %		突固め層数 層		質量 m <sub>1</sub> <sup>2)</sup> g

測定 NO.	1	2	3	4
(試料+モールド)質量 m <sub>2</sub> <sup>2)</sup> g				
湿潤密度 ρ <sub>t</sub> g/cm <sup>3</sup>				
平均含水比 w %				
乾燥密度 ρ <sub>d</sub> g/cm <sup>3</sup>				

含水比	容器 NO.				
	(試料+容器)質量 m <sub>a</sub> g				
	(炉乾燥試料+容器)質量 m <sub>b</sub> g				
	容器質量 m <sub>c</sub> g				
	w %				
含水比	容器 NO.				
	(試料+容器)質量 m <sub>a</sub> g				
	(炉乾燥試料+容器)質量 m <sub>b</sub> g				
	容器質量 m <sub>c</sub> g				
	w %				

測定 NO.	5	6	7	8
(試料+モールド)質量 m <sub>2</sub> <sup>2)</sup> g				
湿潤密度 ρ <sub>t</sub> g/cm <sup>3</sup>				
平均含水比 w %				
乾燥密度 ρ <sub>d</sub> g/cm <sup>3</sup>				

含水比	容器 NO.				
	(試料+容器)質量 m <sub>a</sub> g				
	(炉乾燥試料+容器)質量 m <sub>b</sub> g				
	容器質量 m <sub>c</sub> g				
	w %				
含水比	容器 NO.				
	(試料+容器)質量 m <sub>a</sub> g				
	(炉乾燥試料+容器)質量 m <sub>b</sub> g				
	容器質量 m <sub>c</sub> g				
	w %				

特記事項

- 1) 内径15cmのモールドの場合はスペーサーディスクの高さを差引く。
- 2) モールドの質量は底板を含む。

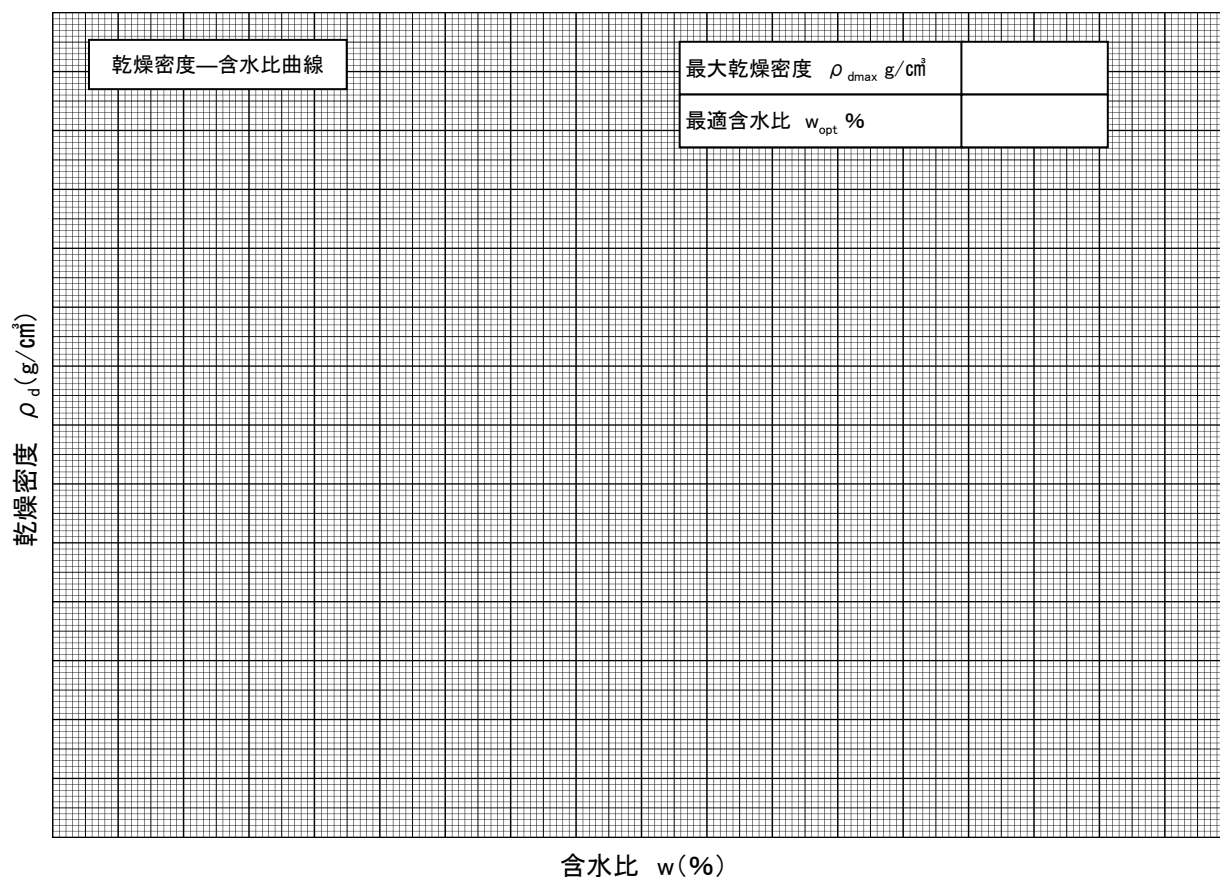
$$\rho_d = \frac{\rho_t}{1+w/100} \quad w = \frac{m_a - m_b}{m_b - m_c} \times 100$$

突固めによる土の締固め試験(締固め特性)  
(JIS A 1210、JGS 0711)

工事名 \_\_\_\_\_ 試験日 平成 年 月 日 \_\_\_\_\_ 受注会社名 \_\_\_\_\_

工種名 \_\_\_\_\_ 試料採取地点 \_\_\_\_\_ 測定者 \_\_\_\_\_ 印 \_\_\_\_\_

試験方法			土質名称					
試料の準備方法	乾燥法、湿潤法		ランマー質量 kg		土粒子の密度 $\rho_s$ g/cm <sup>3</sup>			
試料の使用方法	繰返し法、非繰返し法		落下高さ cm		試料調製前の最大粒径mm			
含水比	試料分取後 $w_0$ %		突固め回数 回/層		モールド	内径 cm		
	乾燥処理後 $w_1$ %		突固め層数 層			高さ <sup>1)</sup> cm		
測定 NO.	1	2	3	4	5	6	7	8
平均含水比 $w$ %								
乾燥密度 $\rho_d$ g/cm <sup>3</sup>								



特記事項

- 1) 内径15cmのモールドの場合はスペーサーディスクの高さを差引く。

ゼロ空気間隙曲線の計算式

$$\rho_{dsat} = \frac{\rho_w}{\rho_w/\rho_s + w/100}$$

(アスファルト関係)

様式 38

アスファルト試験成績一覧表

工事名 \_\_\_\_\_ 受注会社名 \_\_\_\_\_

工種名 \_\_\_\_\_ 測定者 \_\_\_\_\_ 印 \_\_\_\_\_

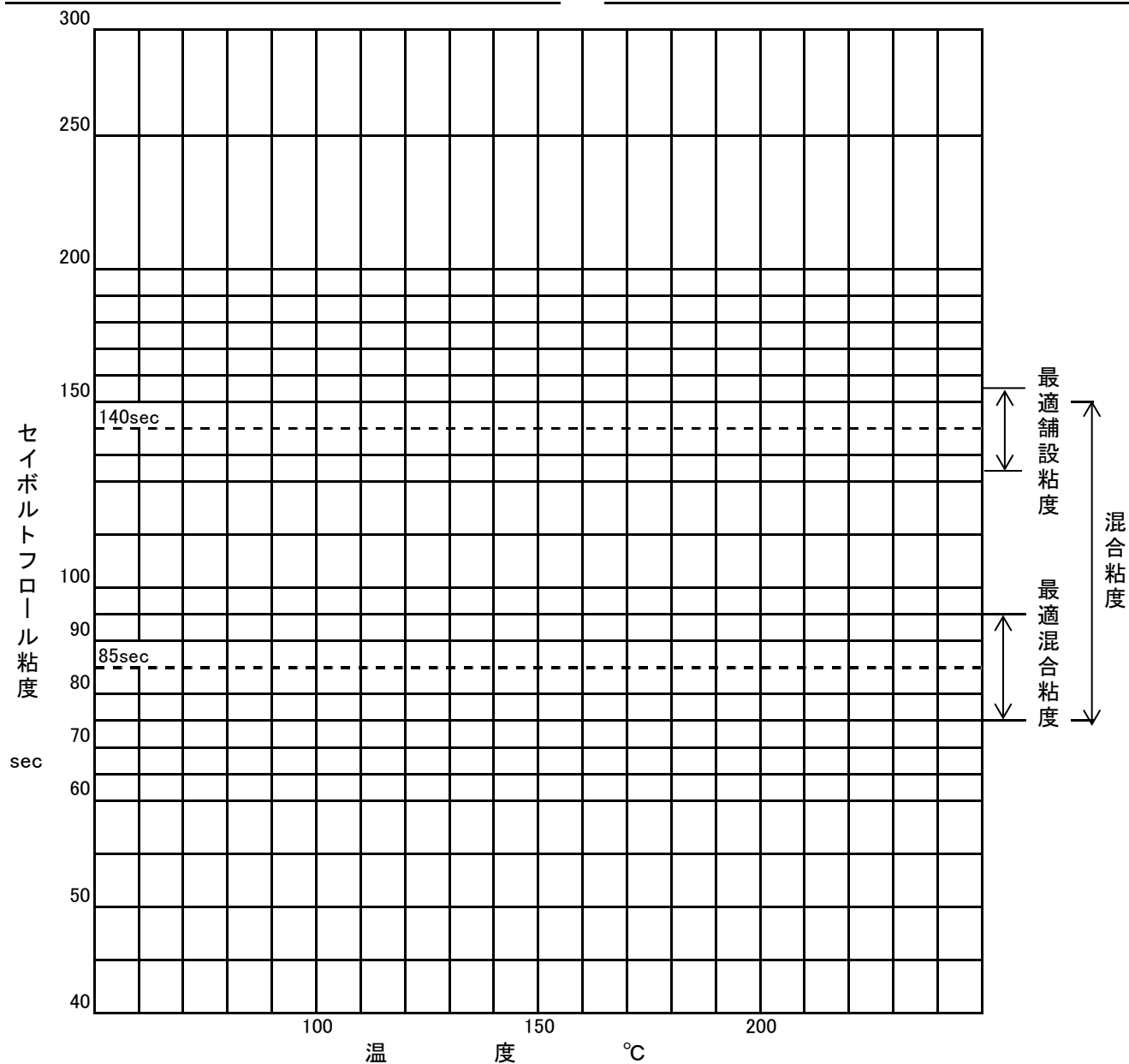
分類			
用途			
製造会社			
密度 (25°C/25°C)	規格	規格	規格
軟化点 °C	規格	規格	規格
針入度	(0°C. 200g. 60秒)	※	
	(25. 100. 5)	規格	規格
	(46. 50. 5)	※	
伸度	(25°C)cm	※	
	(15)cm	規格	規格
	(10)cm	※	
	(5)cm	※	
薄膜加熱重量変化 %	規格	規格	規格
薄膜加熱後の針入度 %	規格	規格	規格
蒸発後の針入度比 %	規格	規格	規格
三塩化エタン可溶分 %	規格	規格	規格
引火点 °C	規格	規格	規格

※は分類につき3,000ton以上使用するものに行う。  
アスファルトメーカーが行った場合は日本道路協会規格による。

試験所名 \_\_\_\_\_

アスファルトの粘度温度表

工事名 \_\_\_\_\_ 受注会社名 \_\_\_\_\_  
 工種名 \_\_\_\_\_ 測定者 \_\_\_\_\_ 印 \_\_\_\_\_



	記号	種類	加熱温度	混合温度	舗設温度
最適温度			± °C	± °C	± °C
			± °C	± °C	± °C
現場管度			± °C	± °C	± °C
			± °C	± °C	± °C
混合舗設間温度低下推定					± °C

粗骨材試験成績一覧表（碎石）

工事名		受注会社名			
工種名		測定者			印
種	類				
用	途				
産	地				
生	産	会	社		
原	石	種	類		
粒度 (通過量 %)	53	mm			
	37.5				
	31.5				
	26.5				
	19				
	13.2				
	9.5				
	4.75				
	2.36				
密	度				
単位体積質量(標準) kg/m <sup>3</sup>					
" (軽装) kg/m <sup>3</sup>					
安定性 %					
吸水率 %					
すりへり減量 %					
洗い試験で失われる量 %					
軟石量 %					
細長、扁平(質量) %					
" (箇數) %					
総試料質量 kg					
アルカリシリカ反応	試験結果				
試験(JIS A 5308)	試験方法				
試験年月日					
試験機関名					

細骨材試験成績一覧表（砂）

工事名		受注会社名			
工種名		測定者			印
種	類				
用	途				
産地	河川名				
"	市郡町村				
生産	会社				
粒度 (通過量%)	4.75 mm				
	2.36				
	0.6				
	0.3				
	0.15				
	0.075				
	F・M				
密	度				
単位体積質量(標準) kg/m <sup>3</sup>					
" (軽装) kg/m <sup>3</sup>					
安定性 %					
吸水率 %					
洗い試験で失われる量 %					
粒形判定実績率					
総試料質量 kg					
アルカリシリカ反応 試験(JIS A 5308)	試験結果				
	試験方法				
試験年月日					
試験機関名					
備考					

石粉及びスクリーニングス試験成績一覧表

工事名 \_\_\_\_\_ 受注会社名 \_\_\_\_\_  
 工種名 \_\_\_\_\_ 測定者 \_\_\_\_\_ 印

種	類				
用	途				
産	地				
生	産	会	社		
原	石	の	種	類	
粒 度 ( 通 過 量 %) )	9.5	mm			
	4.75				
	2.36				
	0.6				
	0.3				
	0.15				
	0.075				
密	度				
単	位	体	積	質	量 (標準) kg/m <sup>3</sup>
”		(	軽	装)	kg/m <sup>3</sup>
安	定	性	①	%	
吸	水	率	②	%	
す	り	へ	り	減	量 ③ %
0.075	通	過	分	の	P. I. ④
加	熱	変	質	200 °C	⑤
フ	ロ	ー	試	験	⑥ %
浸	水	膨	張	⑦	%
は	く	離	試	験	⑧ %
総	試	料	質	量	kg
試	験	年	月	日	

注 ①～③はスクリーニングスのみとする。

④～⑧は原石が石灰岩以外の石粉及び合成した場合の0.075通過分の1割以上がスクリーニングス0.075通過分で占める場合のスクリーニングスの0.15通過分について行う。

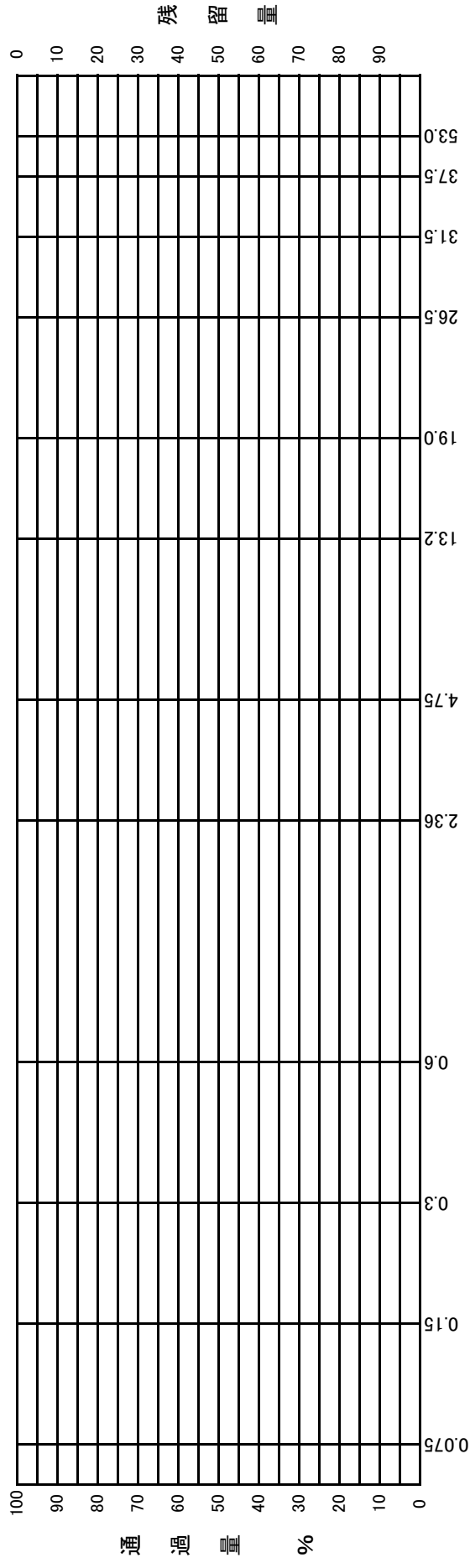
⑤は200℃ ⑥はセメントモルタル用フローテーブルで15回落下200mmの時の石粉に対する水の重量比

様式 43

骨材粒度曲線表(アスファルト)

試験日 平成 年 月 日

工事名 \_\_\_\_\_ 受注会社名 \_\_\_\_\_ 測定者 \_\_\_\_\_ 印 \_\_\_\_\_



粒 径 mm

①			⑦	
②			⑧	
③			例	種類、産、用途
凡 例				





様式 45

骨材の推定変動範囲(細骨材及びスクリーニングス)

試験日 平成 年 月 日

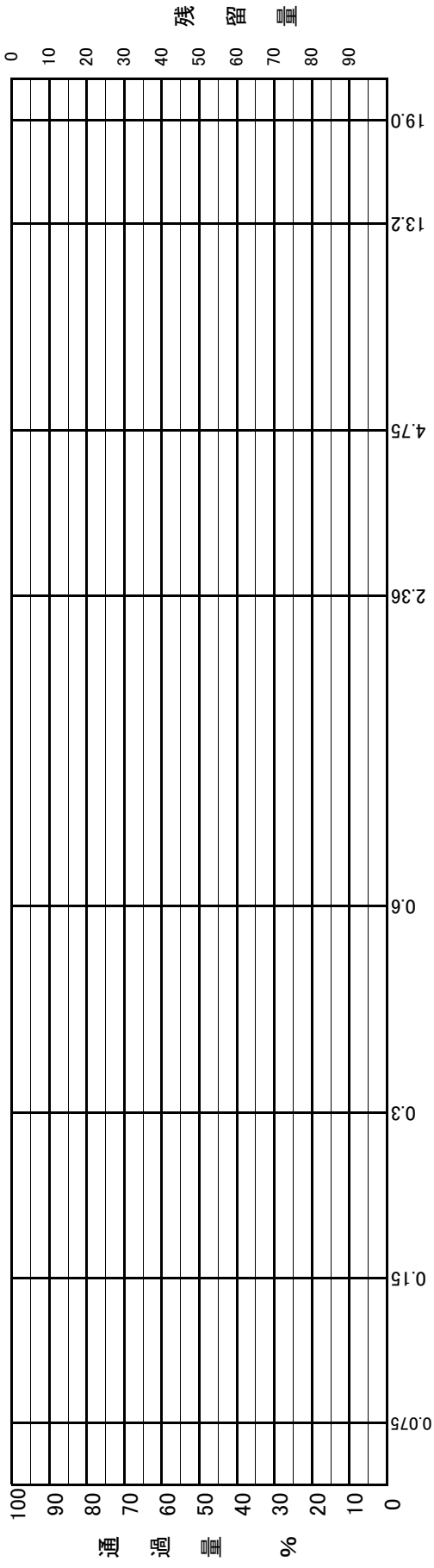
受注会社名

測定者

工事名

工種名

印



粒径 mm

凡例	①					
	②					
	③					
	④					

骨 材 配 合 率 の 密 度 補 正

工 事 名 \_\_\_\_\_ 受注会社名 \_\_\_\_\_

工 種 名 \_\_\_\_\_ 測 定 者 \_\_\_\_\_ 印

							(記号) ( )	(合材種別) ( )
骨 材 種 類								計
配 合 率 a								100
密 度 b								-
a × b								(c)
補 正 配 合 率 $\frac{a \times b}{c} \times 100$								100

様式 47

骨材配合率及びび合成粒度（室内試験）

試験日 平成 年 月 日

工事名 \_\_\_\_\_ 受注会社名 \_\_\_\_\_ 印  
 工種名 \_\_\_\_\_ 測定者 \_\_\_\_\_

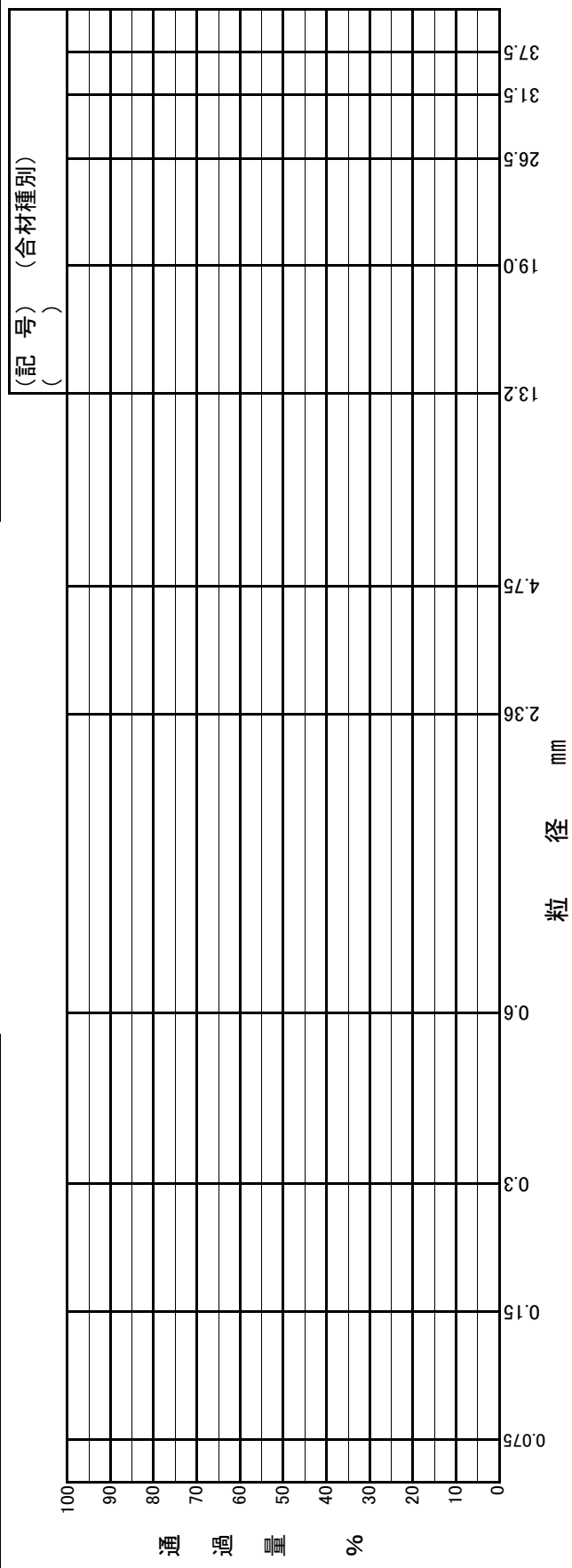
骨材種類 配合率 (比重補正)	X		X		X		X		X		合成度 Σ (X配合率)	指定粒度範囲
	原粒度	配合率	原粒度	配合率	原粒度	配合率	原粒度	配合率	原粒度	配合率		
通過量												
53 mm												
37.5												
31.5												
26.5												
19												
13.2												
4.75												
2.36												
0.6												
0.3												
0.15												
0.075												

様式 48

合成粒度曲線(室内試験)

試験日 平成 年 月 日

工事名 \_\_\_\_\_ 受注会社名 \_\_\_\_\_ 印  
工種名 \_\_\_\_\_ 測定者 \_\_\_\_\_



_____	合成粒度
-----	指定範囲

様式 49

試験配合表（アスファルト量別）

試験日 平成 年 月 日

工事名 \_\_\_\_\_

受注会社名 \_\_\_\_\_

工種名 \_\_\_\_\_

測定者 \_\_\_\_\_

印 \_\_\_\_\_

配合区分	アスファルト量%	粗骨材%			細骨材%		石粉 %	合計 %	摘要
(アスファルト針入度 )									
A									
B									
C									
D									
E									
F									

・配合区分はアスファルト量0.5%又は0.3%毎に区分すること

アスファルト混合物の安定度試験  
(マーシャル式・理論最大密度)

工事名 \_\_\_\_\_ 受注会社名 \_\_\_\_\_

工種名 \_\_\_\_\_ 測定者 \_\_\_\_\_ 印

試 験 日	平成 年 月 日 曜 天候				
試 験 日 の 状 態	室 温 (°C)	湿 度 (%)	水 温 (°C)		
混 合 物 の 種 類					
理 論 最 大 密 度 の 計 算					
骨 材 の 種 類	産 地 名	① 配 合 比 (%)	②各骨材の比重	③係 数	$\frac{①}{②}$
係 数 の 和=④=					
乾 燥 骨 材 の 比 重= $\frac{100}{④}$ =					
⑤ アスファルト 混 合 率 (%)	⑥ アスファルトの 比 重	⑦ $\frac{⑤}{⑥}$	⑧ $\frac{④(100-⑤)}{100}$	⑨ ⑦+⑧	⑩ 理 論 最 大 密 度 $\frac{100}{⑨}$
考 察					
-----					
-----					
-----					
-----					
-----					
-----					





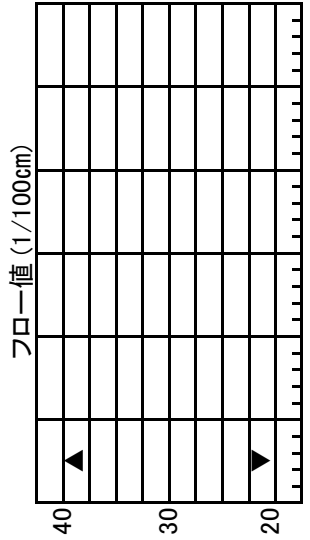
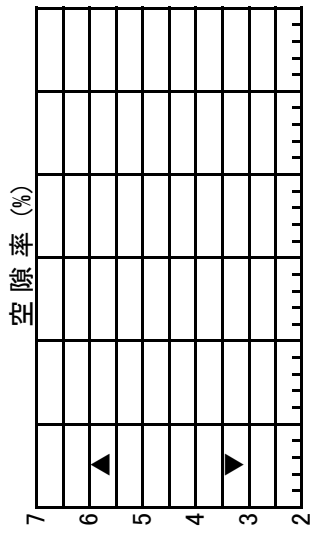
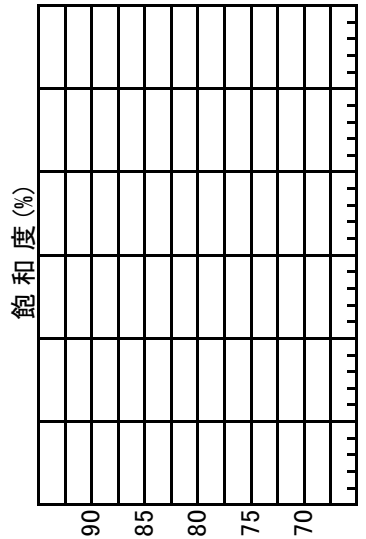
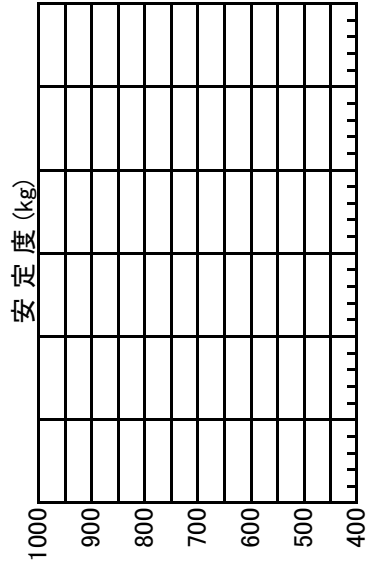
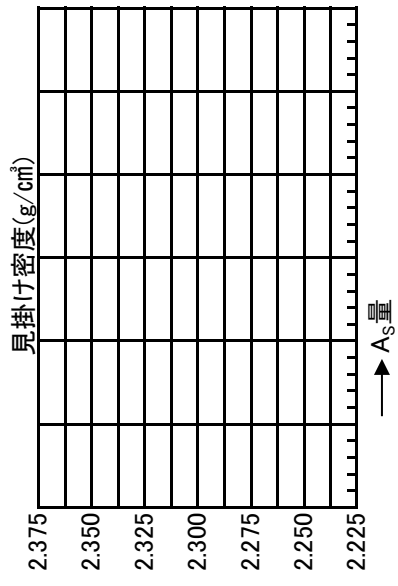
様式 51

試験結果図表

工事名 \_\_\_\_\_  
 工種名 \_\_\_\_\_

受注会社名 \_\_\_\_\_ 印  
 測定者 \_\_\_\_\_

(記号) (合材種別)  
 ( ) ( )




注) : 上記の基準値の線は密粒度の1例を示している。合材種類が異なる場合は、「アスファルト舗装要綱」により適宜置き換えること。


マーシャル試験による基準アスファルト量

工事名 \_\_\_\_\_ 受注会社名 \_\_\_\_\_  
 工種名 \_\_\_\_\_ 測定者 \_\_\_\_\_ 印 \_\_\_\_\_

(記号) (合材種別)  
( )

安定度									
フロ－値									
空隙率									
飽和度									
アスファルト量	4.0	4.5	5.0	5.5	6.0	6.5	7.0	%	
許容範囲									

注：1. それぞれの範囲を  で示し、端部にアスファルト量の数値を付記する。

許容範囲は4項をすべて満足する範囲を  で示し、端部にアスファルト量の数値を付す。

2. 上表の基準値は、密粒度の1例、種別が異なる場合は「アスファルト舗装要綱」による。

基準アスファルト量A

許容範囲の最大値 ①	%
〃 最小値 ②	%
A= [ $\frac{①+②}{2}$ ]	%

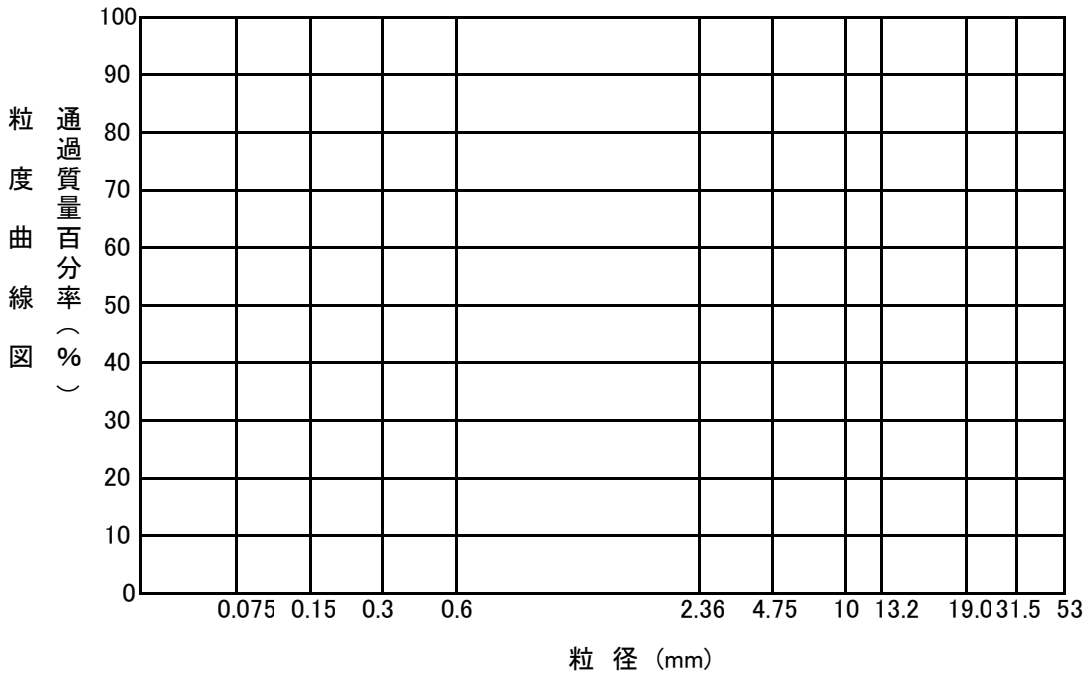
注：アスファルト混合物の一般的な配合設計では、所要の性状を満足し切れない特殊条件のある場合は、現地の実情、過去の実績を勘案して①～Aの範囲で適宜決めること。  
 なお、「特殊条件」とはアスファルト舗装要綱による「特殊条件」のことである。

フィーダ、ホットビン、ミキサーの骨材の粒度試験

工事名 \_\_\_\_\_ 受注会社名 \_\_\_\_\_  
 工種名 \_\_\_\_\_ 測定者 \_\_\_\_\_ 印 \_\_\_\_\_

試験日 平成 \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日 午前 \_\_\_\_\_ 時 \_\_\_\_\_ 分  
 試料採取時刻 午後 \_\_\_\_\_ 時 \_\_\_\_\_ 分  
 骨材の産地又は製造会社名 \_\_\_\_\_

骨材の種類 通過ふるい											合成 粒度
	53										
37.5											
31.5											
19.0											
13.2											
9.5											
4.75											
2.36											
0.6											
0.3											
0.15											
0.075											
31.5											
19.0											
13.2											
9.5											
4.75											
2.36											
0.6											
0.3											
0.15											
0.075											





アスファルトの抽出試験

工 事 名 \_\_\_\_\_  
 工 種 名 \_\_\_\_\_ 舗装箇所 \_\_\_\_\_  
 試 料 番 号 \_\_\_\_\_ 受注会社名 \_\_\_\_\_  
 試 験 日 平成 年 月 日 \_\_\_\_\_ 測 定 者 \_\_\_\_\_ 印 \_\_\_\_\_

アスファルト抽出試験結果				(焼却法)				(加圧濾過法)			
試 験		採 取 時		試 験		採 取 時		試 験		採 取 時	
抽出前の試料の質量 g	①			抽出液全容積 cc	⑦			加圧前の口紙の質量 g	⑦		
抽出前の口紙の質量 g	②			焼却前の蒸発皿の質量 g	⑧			加圧後の残留物質質量 g	⑧		
抽出骨材質量 g	③			焼却後の蒸発皿の質量 g	⑨			加圧後の口紙の質量 g	⑨		
抽出後の口紙の質量 g	④			石粉の質量 g	⑩			口紙付着石粉質量 g	⑩		
口紙付着石粉の質量 g	⑤	④-②		抽出液中の石粉の質量 g	⑪			抽出液中の石粉質量 g	⑪		
抽出全骨材質量 g	⑥	③+⑤		⑩=⑨-⑧ ⑪=⑩× $\frac{⑦}{100}$				⑩=⑨-⑦ ⑪=⑧+⑩			
				抽出残留物(骨材)の粒度分布							
全骨材質量 g	⑫	⑥+⑪									
アスファルト量 g	⑬	①-⑫									
アスファルト混合率 %	⑭	$\frac{⑬}{①}$									
備考											

抽出残留物のふるい分け結果

採取時 試 験									
	ふるい目 (mm)	各ふるい残留質量 g	各ふるい残留百分率%	累加残留百分率%	累加通過百分率%	各ふるい残留質量 g	各ふるい残留百分率%	累加残留百分率%	累加通過百分率%
53									
31.5									
19.0									
13.2									
4.75									
2.36									
0.6									
0.3									
0.15									
0.075									
0.075以下									

路面の平坦性試験表（標準偏差）

工 事 名		測 定 車 線	
		測定器の種類	
施 工 地 名	市 町 郡 村	測 定 年 月 日	年 月 日
受注会社名		測 定 者	印

標準 偏差 の 計 算	$\bar{R} = \frac{R_1+R_2+R_3+\dots+R_n}{n}$ $\sigma = \frac{\bar{R}}{d_2}$	d <sub>2</sub> の値	
		グループの大きさ	d <sub>2</sub>
		6	2.53
		7	2.70
		8	2.85
		9	2.97
		10	3.08

グループ	範囲(R)	グループ	範囲(R)	グループ	範囲(R)	グループ	範囲(R)	グループ	範囲(R)

注) 1. 測定値を作成したのち本表で標準偏差を求める。  
 2. 測定方法は「アスファルト舗装要綱」による。

プルーフローリング試験

工事名 \_\_\_\_\_ 受注会社名 \_\_\_\_\_

工種名 \_\_\_\_\_ 測定者 \_\_\_\_\_ 印 \_\_\_\_\_

項目	事項				備考
天候		測定面の含水状況			
試験区間	No. _____ ~No. _____				
載荷車	型式		接地圧		
載荷状況	予備載荷回数	回	本載荷速度	km/h	

試験結果

視察展開図	
視察記事	
異常箇所の処置	

(品質管理関係)

様式 58-1

X - R 管理データシート

工 事 名	受注会社名
工 種 名 ( 名 称 )	測 定 者 印
項 目 名 ( 品 質 特 性 )	作 成 者 印

設 計 基 準 値 A	規 格 値 限 界		測 定 単 位	日 標 準 量
	上 限	下 限		資 料 大 小 間 隔
	+	-		作 業 機 械 名

月 日	測 点	組 番 の 号	測 定 値			計 $\Sigma X$	平 均 値 $\bar{X}$	範 圍 R			
			$X_1$	$X_2$	$X_3$						
		1									
		2									
		3									
		4						平均	$\bar{X}$	R	$\bar{R}$
		5						累計			
小計								小計			
		6									
		7									
		8									
		9						平均	$\bar{X}$	R	$\bar{R}$
		10						累計			
小計								小計			
		11									
		12									
		13									
		14									
		15									
		16									
		17									
		18									
		19						平均	$\bar{X}$	R	$\bar{R}$
		20						累計			
小計								小計			

(注)

1. 管理限界線の引直しは、5-5-10-20-20方式による。
2. 21組から40組までは別のデータシートに記入する。以下、20組ごとに同様とする。

記 事

記入要領

1. 「項目名」はコンクリート(セメントの物理試験)、道路工(含水量試験)等の品質特性を記入する。
2. 「月日」の欄は測定年月を記入する。
3. 「番号」の欄はSTA又はロット番号である。
4. 「測点」の欄は当該測点番号を記入する。

n	$d_2$	$A_2$	$D_4$
2	1.13	1.88	3.27
3	1.69	1.02	2.57
4	2.06	0.73	2.28
5	2.33	0.58	2.11



X - R 管理データシート

工事名 \_\_\_\_\_ 受注会社名 \_\_\_\_\_  
 工種名(名称) \_\_\_\_\_ 測定者 \_\_\_\_\_ 印 \_\_\_\_\_  
 項目名(品質特性) \_\_\_\_\_ 作成者 \_\_\_\_\_ 印 \_\_\_\_\_

設計 基準値 A	規格値 限界		測定 単位
	上限	下限	
	+	-	

日標準量	
資料	大きさ
	間隔
作業機械名	

月日	測点	組番 の号	測定値			計 $\Sigma X$	平均値 $\bar{X}$	範囲 R			
			$X_1$	$X_2$	$X_3$				平均	$\bar{X}$	R
									平均	$\bar{X}$	$\bar{R}$
									累計		
									小計		

特記 \_\_\_\_\_

(注) 1. 管理限界線の引直しは、5-5-10-20方式による。  
 2. 21組から40組までは別のデータシートに記入する。以下、20組ごとに同様とする。

記入要領

1. 「項目名」はコンクリート(セメントの物理試験)、道路工(含水量試験)等の品質特性を記入する。
2. 「月日」の欄は測定年月を記入する。
3. 「番号」の欄はSTA又はロット番号である。
4. 「測点」の欄は当該測点番号を記入する。

n	d <sub>2</sub>	A <sub>2</sub>	D <sub>4</sub>
2	1.13	1.88	3.27
3	1.69	1.02	2.57
4	2.06	0.73	2.28
5	2.33	0.58	2.11

様式 58-3

X - R 管理図

設計基準値 名称	品質特性	測定単位	測定方法	作業機械名	工事日	工事標準	名量	事業所名	名	日				
											規格限界	上限度	下限度	大きさ
								期	間	自	至	年	月	日
								受注	会社	名		年	月	日
								現場	代理人					
								測定	者					印
X														
R														
	組の番号													
	記事													

注) 1.管理図は、別紙X-R管理データシートから記入する。  
 2.記事欄には、異常原因、その他必要事項を記入する。

X-Rs-Rm 管理データシート

名 称		工 事 名		測定	自	年 月 日
品質・特性		事業所名		期間	至	年 月 日
測定単位		日標準量		受注会社名		
規格 限界	上限値	試料	大きさ	現場代理人		印
	下限値		間隔	測定者		印
設計基準値		作業機械名		作成者		印

月日	試験 番号	測 定 値				計 Σ	平 均 X	移 動 範 囲 Rs	測 定 値 内 囲 Rm	$\bar{X} \pm E_2 \cdot \bar{R}_s =$ $D_4 \cdot \bar{R}_s =$ $D_4 \cdot \bar{R}_m =$				
		a	b	c	d						X	Rs	Rm	
	1													
	2													
	3													
	4									平均	$\bar{X} =$	$\bar{R}_s =$	$\bar{R}_m =$	
	5									累計				
	小計									小計				
	6									$\bar{X} \pm E_2 \cdot \bar{R}_s =$				
	7									$D_4 \cdot \bar{R}_s =$		$D_4 \cdot \bar{R}_m =$		
	8									平均	$\bar{X} =$	$\bar{R}_s =$	$\bar{R}_m =$	
	小計									累計				
										小計				
	9									$\bar{X} \pm E_2 \cdot \bar{R}_s =$				
	10									$D_4 \cdot \bar{R}_s =$				
	11									$D_4 \cdot \bar{R}_m =$				
	12									平均	$\bar{X} =$	$\bar{R}_s =$	$\bar{R}_m =$	
	13									累計				
	小計									小計				
	14									$\bar{X} \pm E_2 \cdot \bar{R}_s =$				
	15									$D_4 \cdot \bar{R}_s =$				
	16									$D_4 \cdot \bar{R}_m =$				
	17													
	18													
	19									平均	$\bar{X} =$	$\bar{R}_s =$	$\bar{R}_m =$	
	20									累計				
	小計									小計				
記 事										n	d <sub>2</sub>	D <sub>4</sub>	E <sub>2</sub>	
										2	1.13	3.27	2.66	
										3	1.69	2.57	1.77	
										4	2.06	2.28	1.46	
										5	2.33	2.11	1.29	

- 注) 1. 規格限界、設計基準値は設計図書に定められた値を記入する。  
 2. 管理限界線の引直しは5-3-5-7-10-10-10方式による。

(備考) ————— 管理限界計算のための予備データの区間を示す。  
 ----- 上記の管理限界を運用する区間を示す。

3. 以下、最近20個(平均値 x を1個とする)のデータを用い、次の10個に対する管理限界とする。



様式 60

X - Rs - Rm 管理図

設計基準値	名	品	測	測	作業機械名	工	事		名	事	業	所	名	年	月	日
							日	標								
称	性	位	規格	試		日	界	上	下	大	間	社	理			
特	性	位	格	試		日	界	限	値	き	隔	会	代			
定	性	位	界	料		日	界	限	値	さ		注	場			
方	性	位	界	料		日	界	限	値	間		受	代			
法	性	位	界	料		日	界	限	値			現	理			
名	性	位	界	料		日	界	限	値			測	人			
	性	位	界	料		日	界	限	値				者			
	性	位	界	料		日	界	限	値				印			
X																
Rs																
Rm																
組	の	番	号													
記	事															

注) 1. 管理図は、別紙X-Rs-Rm管理シートから記入する。  
 2. 記事欄には、異常原因、その他必要事項を記入する。